

小平市教育委員会議事録
——8月臨時会——

平成27年8月6日（木）

開 催 日 時 平成27年8月6日(木) 午後1時30分～午後5時59分
開 催 場 所 市役所大会議室
出 席 委 員 森井良子 委員長
山田大輔 委員長職務代理者
高槻成紀 委員
三町章 委員
関口徹夫 教育長
説明のための出席者 有川知樹 教育部長
高橋亨 教育指導担当部長兼指導課長
松原悦子 地域学習担当部長
滝澤文夫 教育総務課長
森田恒明 指導課長補佐
小林邦子 教育施策推進担当課長
荒木忍 指導主事
横山明 指導主事
中村和哉 指導主事
書 記 宮崎淳 教育総務課長補佐、塚本真也 教育総務課主事
傍 聴 者 44名

午後1時30分 開会

(開会宣言)

○森井委員長

ただいまから、教育委員会8月臨時会を開催いたします。

本日は、大勢の傍聴者の方がいらっしやっています。入口でお渡しいたしました傍聴券の裏面に注意事項が記載してございますので、ご了解の上、傍聴中は静粛を旨とし、円滑な会議の進行にご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

(署名委員)

○森井委員長

それでは初めに、議事録署名委員の指名を行います。本日の議事録署名委員でございますが、山田委員長職務代理者及び私、森井でございます。

(協議事項)

○森井委員長

それでは協議事項を行います。

協議事項、平成28年度から平成31年度使用中学校教科用図書についてを議題といたします。

初めに、本年度の中学校教科用図書の採択について、これまでの経緯を事務局から報告いただきます。

○高橋教育指導担当部長

それでは、中学校教科用図書の採択につきまして、これまでの経緯をご報告いたします。

本年4月27日の教育委員会定例会におきまして、平成28年度使用中学校教科用図書採択方針、平成27年度小平市立中学校教科用図書採択要領、及び同細則を定め、これに基づきまして、5月15日に学識経験者、保護者代表、中学校長、副校長で構成される、小平市立中学校教科用図書審議委員会及び同審議委員会の下部組織であります教科用図書調査部会を設置し、委員の委嘱をいたしました。

同調査部会では、全ての教科書について、教科、種目、発行者ごとに専門的な調査研究を行い、調査資料をまとめ、6月24日に同審議委員会に提出をいたしました。また6月6日から7月12日までの間、市内6館の図書館におきまして、教科書の見本本を展示し、あわせて市民の皆様のご意見をお寄せいただきました。

各学校におきましても、各教科書の調査研究を行い、その結果を報告書としてまとめ、同審議委員会に提出いたしました。同審議委員会からは、これらの資料をもとに検討を重ね、まとめたものを同調査報告書として、7月16日に提出をいただきました。

なお、教育委員の皆様には同審議委員会からの報告のほか、各学校における調査研究報告、各教科書発行者の教科書編集趣意書、東京都教育委員会が作成した調査研究資料、図書館で実施いたしましたアンケートの図誌をお渡ししているところでございます。これらの資料もあわせてご参照いただき、ご協議いただきたいと存じます。

○森井委員長

ありがとうございました。

採択する中学校教科用図書につきましては、9教科、15種目でございます。

協議の手順といたしましては、本日は種目ごとに、国語、書写、社会の地理的分野、歴史的分野、公民的分野、地図、数学、理科、音楽の一般、器楽合奏、美術、保健体育、技術・家庭の技術分野、家庭分野、英語の順に委員の皆様からご意見をいただき、種目別に採択を決定する議案に載せる教科用図書の候補を選定いたします。

8月20日の教育委員会定例会では、さらに各種目の候補を1者に絞り込み、協議終了後に議案を作成し、審議する予定でございます。

それでは、中学校教科用図書の見本本も用意されておりますので、適宜ご参照いただき、また、既に7月定例会で報告をいただいております「小平市立中学校教科用図書審議委員会報告」につ

いても参考にご協議願います。

なお、進行状況にもよりますが、協議する内容が多いため、理科の協議に移る前あたりで、1回休憩をとりたいと存じます。

前回の平成23年度の中学校教科用図書の採択の際には、平成20年3月の現行学習指導要領の告示を受け、教科用図書の内容が大きく変更になっておりました。今回は、学習指導要領の改訂はありませんので、基本的な考え方に違いはないと考えておりますが、教科ごとの協議に入る前に、各教科の目標や学習指導要領のポイントについて、事務局から説明願います。

それでは、初めに、国語について行います。

なお、7月定例会において、高槻委員より、著作物が2者の国語の教科書で使用されていることから、編集などの著作には関わってはおりませんが、教科書採択に際し、少しの疑念も持たれないようにするため、国語については審議から外れたいとの申し出があり、その思いを尊重し、国語の審議には加わらないことにいたしました。よって、高槻委員には、国語の審議の間は退席していただきます。

暫時休憩といたします。

— 暫時休憩 —

○森井委員長

再開いたします。

国語について、事務局から説明願います。

○高橋教育指導担当部長

それでは、国語の目標及び学習指導要領のポイントについて説明をいたします。

国語の目標は、国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てる、でございます。

国語の学習指導要領のポイントとして3点、第1に言語の教育として立場を一層重視し、実生活で働き、各教科等の基本ともなる国語の能力を身につけることに重点を置き、批評、評論、論説などの言語活動を充実すること。

第2に記述力、表現力の課題に対応するため、話すこと、聞くこと、書くことの指導においては自分の立場を明確にして述べたり、根拠に基づいて論理的に述べたりすること。読むことの指導においては、読んだことに基づいて自分の考えを表現することを重視すること。

第3に、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項を新設し、古典の指導を重視するとともに、古典に対してさらに興味関心が持てるよう、現代語訳や古典の世界について、解説した文章などを取り上げて指導することでございます。

○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、国語の協議に入ります。

国語につきましては、発行者5者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい国語」、学校図書が「中学校国語」、三省堂が「現代の国語」、教育出版が「伝え合う言葉 中学国語」、光村図書出版が「国語」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたかご発言をお願いいたします。

○山田委員長職務代理者

それではまず私から国語の教科書につきまして、意見を述べさせていただきます。

まず全体的、基本的には、全教科の教科書で、学習指導要領に基づき、正確かつ公正であるとの審議会調査報告をもとに、私はこの国語の教科書を、特に読み物としてどうか、生徒が国語の教科書を手にして、読書に興味関心を抱いてもらい、読書の出会いときっかけの場になってもらいたい、そのような思いから、心が動く作品であったり、心が揺さぶられる作品、また心に残る作品、要は感動を覚え、生徒にぜひ読んでもらいたい、そのような観点を強く持ちまして、私はまず、学校図書を推薦させていただきます。

私は、この教科書が非常に楽しく、おもしろく、一気に読み切りました。まず1年生の巻頭ですが、谷川俊太郎さんの「はる」の詩から中学1年生の導入というところで見させていただきまして、新入生、新学期のフレッシュな心持ちに深呼吸をさせてくれるような詩だと感じております。小・中学校9年間のリスタートを感じさせる、そんな巻頭になっていると感じました。

また2年生の巻頭では、「おたまじゃくしたち四五匹」草野心平さんの詩から、中学2年生の不安な時期、情緒不安定な時期、そんなお子さんもいらっしゃると思いますが、そんな時期に、一人ではないということ、うれしいことも悲しいこともひっくるめて、共存していることに気づかせてもらうような詩だと感じました。

3年生の巻頭では、「最初の質問」という詩から、中学3年生のさらに大人への第一歩として、一旦立ちどまって周囲をよく見てみようとして投げかけている。そして最後に言葉をないがしろにしているのかの問いに、こういった何気ない一言が、もしかしたら他人を傷つけているかもしれない、そんな言葉の大切さに気づかせてくれるような詩だと感じました。それぞれの学年にあった詩を選んでいると、巻頭の感想でございました。

また、ここからは私が読み物として国語を捉えたいということで、若干感想文になってきますが、まず中学1年生の本を一気に読み切りました。そこから1年生2ページ目、「風呂場の散髪」椎名誠さんの作品ですが、この作品が普段のコミュニケーション不足からくる小さな衝突と少年の自立心を描いた、父と息子の物語で、とても心が動く作品でございます。中学1年生の一番最初の読み物として、ぜひ生徒に読んでもらいたいと思っております。

続いて14ページ、「字のない葉書」向田邦子さんの作品ですが、文章でしか優しく伝えられない父と妹に対して初めて男泣きを見せた、普段は暴君な今は亡き父をつづる手紙を中心に家族

の絆を描いた作品で、これも心が非常に動かされる、こういったような作品を生徒に読んでもらいたいと感じております。

22ページ「兄やん」笹山さんの作品ですが、仲間の絆を考えさせるような作品で、勇気を持って伝えたサチという登場人物が、それぞれの立場で他人を思いやる人間模様が垣間見える作品でした。こちらも心がとても動かされる作品で、生徒に読んでもらいたいと思っております。

続いて80ページ、「知識の樹木」という作品では、作家自身が4歳で視力を失ってから、盲学校で得た知識や経験を読み知ることで、知識を獲得する喜びを学び、作者に興味を持てるので、生徒にぜひ読んでもらいたいと感じました。

続いて110ページ、「空飛ぶ魔法のほうき」あわやのぶこさんの作品では、物語の導入からは想像もつなかい、幼少期に誰もが持つようなイマジナリーな世界へいざなうような作品です。娘に言った金物屋のおじさんの一言がすごく優しく心に響いた作品で、こちらも生徒にぜひ読んでもらいたいと思っております。

118ページ、「ぬすびと面」は文学、笑い、サスペンス、感動、気づきありと、物語にあつという間に引き込まれるとても楽しい作品で、こちらも生徒にぜひ読んでもらいたい、心に残る作品ではないかと思っております。

136ページ、「二十年後」オー・ヘンリーですが、短編小説の技法と特色を堪能できます。やはり心がとても揺り動かされる、生徒に読ませたい作品でございます。

216ページ、「まなちゃんの道」、若干うぬぼれていた自分が同世代の女の子の1枚の絵に嫉妬や気づき、成長を描いている作品、生徒と同世代でもある共感できるであろう作品でございました。

あと3作品ありますが、222ページ、「少年の日の思い出」ヘルマン・ヘッセ、こちらはほかの教科書、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書にも掲載されている作品ですが、幼いときの心の隅に追いやったほろ苦い思い出をつづった読み物で、読むと本当に心が揺れ動くとてもいい作品ですので、生徒に読んでもらいたいと思っております。

また、237ページ、「シェーク VS. バナナ・スプリット」は、おもしろい作品でしたけれども、成長期、にきび、思春期、さぼり、授業、厳しい先生、ライバルといろいろなキーワードがあり、とてもおもしろく、目がうるっと潤む作品で、共感を生む、まさに同世代の生徒に、読ませたい作品でございました。

そして251ページ、「生物が消えていく」高槻成紀さんの読み物です。田んぼから進化と衰退を説明し、説明文としてわかりやすく紹介していただきました。25行ほどの文章からは本当に本文の結論の構成がしっかりしておりまして、相手にわかりやすく伝えるということを学ぶことができ、社会問題を目の前に突きつけられ、考えさせられる文章でございました。

全体的に現代小説、近代小説、現代随筆などを採用し、生徒にとって親しみやすく生徒の生活経験や実感や共感、そういったものを生む作品が列挙している、この学校図書一つに絞らせていただきたいと思います。

○森井委員長

ありがとうございました。

ただいま山田委員長職務代理者より学校図書の扱っている文章が読み物として素晴らしいというご発言がございました。小平市としては、小・中連携教育の取組の中で、児童・生徒の読書活動を推進しているところですし、昨年度、文部科学省より発表のあった平成26年度全国学力・学習状況調査の結果と、昨年7月に東京都教育委員会が実施した平成26年度、児童・生徒の学力向上を図るための調査結果からも、小平市の児童・生徒にとって意図的、計画的に読むことの力の育成を図ることは必要であることが示されています。

しかし、先ほどご説明のあった国語の目標の中で、国語を適切に表現し、正確に理解する能力の育成や、それを伝え合う力を高めるということと、読んだことに基づいて自分の考えを表現すること、そして古典の指導についてという観点で教科書を見せていただいた中で、私といたしましては、光村図書出版、教育出版、そして三省堂がいいのではないかと感じました。

まず導入の部分で光村図書出版では、この教科書で学習する皆さんへとして、効果的に学習する手引と学習することで身につく力がわかりやすく記載されていること。教育出版では、小・中連携を通して、身につけたい言葉の力が明確に示されており、系統立てた学習につながること。三省堂は、つけたい力の一覧が生徒の理解を深める助けになることが挙げられます。もちろんほかの出版者も身につけさせる力は巻頭に載せてありますが、折り込みページになっているものや、本文に比べて字が小さいなどの点が気になりました。

このほか、光村図書の巻末の学習を広げるが、理解を深めるための資料として大変充実していることや、書く、話す、聞くの指導に役立つ内容が示されていること。また、小平市立中学校教科用図書審議委員会からの調査報告の総合的な所見に指導内容を広く押さえ、現代文の選定に偏りなく、生徒の実態に合った段階的な指導が可能な構成であるとされています。

教育出版では、同じく調査報告で難易度が適切で使いやすく、学習課題もよく考えられているとの所見があり、カラーユニバーサルデザインに配慮していることから、紙面は落ちついた印象を受けます。

三省堂は、何といたしても巻末の資料編が充実しております。読書の広場、考える広場、そして学習用語辞典など、参考資料が生徒の学習の理解を深めるために有効だと感じました。ただ、字体が統一されていないので、学習する側の生徒にとってはどうなのかとの感想も持ちました。ほかにも古典の現代語訳について生徒の理解を促すための工夫や、読書活動を推進するための取組、そして目で見て美しく、なおかつ理解の助けとなるような挿し絵や写真、効果的なコラムなど、各者とも大変素晴らしい教科用図書であるとの感想を持ちました。

○三町委員

私も、それぞれの教科用図書は、バランスが取れていると受けとめながら、審議委員会の調査報告書の中身を意識し、見ました。

とりわけ、国語はバランスよく、特に、言語活動の充実というようなところもありますから、

話すことや、あるいは相手に伝えるように書く力など、そういうことも重視しなければいけないと受けとめています。

そうした中で見たときに、扱われている作品については、私はどの教科書も発展的な内容を含めて、子どもの発達を考えながら、狙いに即した題材が使われているのではないかということで、特に教材についてのこだわりはありませんでした。

その中でやはり子どもが学んでいくという見方で見ていくと、入門期にどのような扱いをしているのかというところ。つまり冒頭のところの書き方や内容、それから学習を進める上で活用されるであろう巻末の資料、そういうところで読みやすいこと、使いやすいこと、内容が充実しているのか、そういうような点も特に見させていただいたきました。

それからもう一つ、古典は、できるだけ原文を読んで味わうような工夫ができないだろうかという視点で見させてもらいました。そういう視点で最終的に絞り込んでいったところが光村図書出版と教育出版の二つを勧めたいと思っています。

それで、光村図書出版を挙げたということもありますが、教材としてどれも発達段階に考慮しているという視点で、市民のアンケートの中に光村図書出版の1年生の教材の中で、花の森の向こうについて、教材として扱いが難しいというようなことが書かれてありました。改めて見させていただきました。それについては、中学校1年生の大体のページの位置でいうと1学期の段階です。いわゆる入学から1～2か月で、一番お互いを知り合って人間関係をきちんと築いていかなければいけない時期になると思います。そういうところでの題材として、かえって私はいい題材だと受けとめさせてもらいました。

その視点から選んだものが光村図書出版、教育出版でございます。

○関口教育長

それでは、これまで各委員のご意見となるべく重複しないように端的に意見を述べたいと思います。

まず、選定する上で私は第1点目として、教材を考えました。話す、聞く、書く、読むの4技能のバランスがよい教材であること。さらに生徒が興味関心を持ちやすく、作者のメッセージが伝わりやすい教材を使用していること。

第2点目としまして、読みやすいことです。文字の大きさ、行の間隔、写真や絵の配置のバランスなど本文が読みやすいということ。

第3点目は学習指導の観点から学習の狙いがわかりやすく計画的に指導しやすいこと。

主にこの3点の視点から選んだ結果、私としては、光村図書出版と教育出版を選びたいと思います。

○森井委員長

ありがとうございました。

ただいま見本本が提出されている5者のうち、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版の

4者が挙げられたところでございますが、皆様のご意見を伺いまして、私は光村図書出版と教育出版の2者について再度検討したいと思いましたが、皆様のご意見はいかがでしょうか。

○山田委員長職務代理者

私は5者から1者に絞り込んでみましたが、委員の皆様の見解はそれぞれ異なるものでございました。私も、全部読ませてもらい、読み物という観点ではということでお話いたしました。全体のバランスといったところでも再度、光村図書出版と教育出版の2者を見直してみたいと思います。またその中から生徒にとって一番というものをご推薦してまいりたいと思いますので、そのご意見に全く相違はございません。

○森井委員長

それでは、委員の皆様のご意見を総合し、国語の議案候補として、発行者名教育出版、図書名「伝え合う言葉 中学国語」及び発行者名光村図書出版、図書名「国語」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

次に書写に移りますが、高槻委員に戻っていただくため、暫時休憩といたします。

－暫時休憩－

○森井委員長

再開いたします。

書写について、事務局からご説明をお願いいたします。

○高橋教育指導担当部長

それでは書写でございますが、国語の目標にのっとり、学年ごとにその内容が学習指導要領に示されております。

第1学年では字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと、及び漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。第2学年では、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく早く書くこと、及び目的や必要に応じて楷書または行書を選んで書くこと。第3学年では、身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこととなっております。

なお、書写の取り扱いについては、文字を正しく整えて、早く書くことができるようにするとともに、その能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう、配慮することや、硬筆及び毛筆を

使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすることとされております。

○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、書写の協議に入ります。書写につきましては、発行者5者から見本本の提出がございました。

図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい書写」、学校図書が「中学校 書写」、三省堂が「現代の書写」、教育出版が「中学書写」、光村図書出版が「中学書写」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたかご発言をお願いいたします。

○山田委員長職務代理者

私から述べさせていただきたいと思います。

国語の書写も、5者全部を見させていただきまして、私はまずは教育出版を第一候補、東京書籍を第二候補に挙げさせていただきたいと思っております。

まず教育出版ですが、扉ページの見開きで、目的にあわせて書こうということで、ポスター、掲示物、ノート、メモ、手紙、色紙、短冊の紹介や、次ページには書く目的、誰に向けて、どのように、表現効果を考えるかという流れをイラストと写真で、しかも用具を使い分けられるように書くことで、中学1年生が大変興味を持てる導入になっていると感じました。

表紙は、5者の中では一番私的には好みだと思っております。

3ページ、姿勢と用具の使い方では、扉になっていて3ページまとめて全体を確認することができる工夫が、ほかの教科書にない工夫だと思っております。

5ページ目、左下に確かめようで、姿勢をチェックできる工夫がありました。

また15ページでは、見開き縦の大きめの見本文字は天地という文字のみ、見本としては全ページの中ではこの文字だけでございました。

二つ目、東京書籍ですが、こちらも扉ページ見開きで、筆の用具の歴史を写真で紹介しているおもしろい工夫、試みを感じています。中学1年生の導入として書くということで、用具、道具というものが最終的にはワードプロセッサの登場まで網羅しておりまして、興味関心をとても引くと感じております。

4ページでは、姿勢、筆記具の持ち方で、毛筆と硬筆の姿勢の写真が2種類で丁寧に表示されております。ただ、背伸びや背筋を伸ばすなど、そんなような表現が、特に文字でのフォローがないのが残念なところではございました。

また、下段に確認しようということで、チェック欄がありますので、そういうところでフォローができていると感じています。

5ページの悪い姿勢の例というのが、上段に載っていますが、これは他社にはない特徴です。

こういった姿勢はいけないなど、悪い例を取り上げているのが、東京書籍のみでございます。

また、普段硬筆を持つ機会が多いことから、どちらかというと毛筆、硬筆の持ち方をしっかり紹介をしています。毛筆はどちらかというと3ページ目に片づけとともに、若干小さめに持ち方を紹介されているように見受けられます。

11ページ、見開きの縦の大きめの見本文字としては、大志、33ページの太陽、そして61ページの流れる雲の3種類ありました。これはほかの教科書では全て大きめの見本というのが一つだけでしたが、東京書籍は三つあり、特徴です。やはり実物大の見本が多めに必要と私は感じているところですので、こちらも候補として挙げさせていただきました。

○森井委員長

ありがとうございました。

書写につきまして、私の意見を述べさせていただきます。私は光村図書出版と教育出版のものがいいと感じました。

光村図書出版は第1学年の最初の8ページ、小学校で学習した内容を復習しつつ、字形の整え方や文字の大きさ、そして配列が学べるよう工夫されている点と、学習のポイントが書き込めること、そして毛筆と硬質との関連がスムーズであると思いました。

また第3学年の目標である身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くことに関して、手紙等の書き方のみならず、送り状や願書、またポスターや新聞など、情報を発信するためのヒントが活用のヒントとして多く取り扱われています。書写で習得した知識や技能を生かし、文字を自分の考えを伝えるためのツールとして活用するのに役立つ教科書であると思いました。

教育出版に関しては、まず毛筆に関してお手本が大きく、筆遣いが毛筆の朱色を使って大変わかりやすいことが特徴として挙げられます。また第2学年では、漢字の行書とそれに調和した書き方を理解して、読みやすく早く書くことが示されていますが、編修趣意書では行書教材になぞり書きを新設したとされており、教材も伝統と文化を尊重した大変美しいものを取り上げられていることから、書写の教科書でありながら、国語としての文字の美しさや、大切さを学べるのではないかと感じました。

各学年で原稿用紙の書き方や新聞、ポスターなど、ほかの教材でも活用できるものが多く掲載されており、加えて巻末の資料の書式の教室では、さらに効果的に文字を書くことにつながる工夫もあり、確かに書くことの基礎、基本の定着に効果的であると思いました。

○三町委員

書写ですが、私はお二人の委員の観点とそんなに変わらないと思っています。生徒にとって使いやすい、あるいは授業で使うときの使い勝手の問題。それから、内容として子どもの体勢、字を書くときの姿勢や、あるいは筆遣いについての配慮というところです。

それから、書写の時間そのものは、年間で20時間くらいになると思います。ですから、書写の手本ということだけでなく、ほかのところでも活用できる資料、そういった視点から絞り込ん

でみまして、教育出版が第一で、次いで光村図書出版を挙げさせていただきます。

○高槻委員

中学時代は、だんだん自分の字が固まってくる年代だと思います。書き方ということに関していえば、どの教科書もよくできているという印象がありました。実際に挙げてある字の大きさ、字の持つ雰囲気など、私は学校図書が一番いいと思いました。大きい字がたっぷり書いてあって、これを目で学ぶことで、いい影響があると思いました。それから、表紙も落ちついた艶消しで、好ましいなと思いました。

もう一つ挙げるとすると、教育出版も大きな差がないので、この二つがいいと思いました。

全体を見て感じたことを一つ、付け加えますと、今、我々は自分で手書きで字を書く機会が減っていて、子どもたちもそうだと思います。そういう時代であるからこそ、手書きの文字の魅力を考えるような、あるいは実際に興味を持たせるような工夫というのが、教科書にはあったほうがいいと思い、そのこと自体を強い調子で取り上げている本は余りなかったので、将来的に期待したいと思います。

○関口教育長

1点目として、毛筆や硬筆の説明がわかりやすいこと、2点目として、限られた授業時数ですので、教科書を見ていつでも練習しやすい教科書であること、この主に2観点から選定をいたしました。

光村図書出版は94ページ以降に平仮名、片仮名、毛筆などの教育教材がありますので、これはいつでも練習に活用しやすいと考えました。

それから、教育出版につきましては、手本が大きいこと、また14ページ、15ページに半紙に合わせた実物大の見本というのが使いやすいと考えましたので、光村図書出版と教育出版を候補として選びたいと思います。

○森井委員長

ありがとうございました。

皆様のご意見を総合いたしますと、全員が教育出版を候補として挙げられております。次候補ということで3者ありますが、いかがでしょうか。

○山田委員長職務代理者

今の委員の皆様は票数でいいますと、教育出版と光村図書に票が集まっている思っておりますので、この2者に絞り込んではいかがでしょうか。

○森井委員長

今、山田委員長職務代理者から次候補ということで光村図書出版も挙げていいのではないかと

いうご意見がございましたがいかがですか。

○高槻委員

異存はありません。光村図書出版も、宅急便の書き方など、實際上、手書きをするような事例が取り上げてあったので、十分にいいと思います。

○森井委員長

それでは、委員の皆様のご意見から、書写につきましては、発行者名教育出版、図書名「中学書写」及び発行者名光村図書出版、図書名「中学書写」を議案候補とすることが妥当かと存じますが、いかがでございますか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

次に、社会の地理的分野に移ります。

地理的分野について、事務局からご説明をお願いいたします。

○高橋教育指導担当部長

それでは、社会の目標と地理的分野の学習指導要領のポイントについてご説明をいたします。

社会科の目標は、広い視野にたつて社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて、多面的、多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家、社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うでございます。

そのポイントは大きく2点、第1に基礎的、基本的知識、概念や技能の習得を重視しています。特に地理的分野におきましては、世界と日本の諸地域の地域的特色について主題を設け、学習し、世界と日本の地理的認識を養うことができるようにいたします。

第2に、言語活動の充実の観点から、事象の意味を解釈する学習や、事象の特色や事象間の関連を説明する学習を重視しております。

地理的分野におきましては、地図の読図や作図などの学習を通して、思考力や表現力等の育成を図る。世界や身近な地域の調査において、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加え論述したり、意見交換したりする活動を充実させることが挙げられます。

また、地理的分野につきましては、平成26年に学習指導要領解説の一部改訂がありました。その内容は大きく2点、一つが領土に関する教育の充実についてで、竹島や尖閣諸島が我が国固有の領土であること。もう一つが自然災害における関係機関の役割等に関する教育の充実についてで、自然災害が発生しやすい地域が多く、災害時に消防、警察、海上保安庁、自衛隊等の諸機関が地域の人々、ボランティアなどが連携して対応していることなどに触れることとございます。

○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、地理的分野の協議に入ります。地理的分野につきましては、発行者4者から見本本の提出がございました。

図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい社会 地理」、教育出版が「中学社会 地理 地域にまなぶ」、帝国書院が「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」、日本文教出版が「中学社会 地理的分野」となっております。

それでは皆様からご意見を伺いたいと思います。どなたかご発言をお願いいたします。

○高槻委員

拝見しまして、2者で甲乙つけがたいのですが、東京書籍は非常に色使いがきれいであり、それからキャラクターが出てきて、子どもたちが興味を持てる工夫がしてありました。

最初に世界全体の説明があり、各アジア、ヨーロッパと、それから日本、日本の中でも各地域というふうに、だんだんとスケールダウンしていく。そういう構造、これは勉強しやすいと思いました。

それから、私たちの世代、その後もそうですが、中近東、イスラム世界の説明というのが乏しかったために、知識も理解も十分でなく、ニュースを見ていてもわからないことが多くてよくないと反省があります。そういう視点で見ましたが、東京書籍は比較的イスラムのことがよく書いてあっていいなと思いました。

それから、日本文教出版、これも大きいところから小さいところに入っていくという構造、それから世界から見て日本がどう見えるかという工夫がしてあって、よいと思いました。ただ、先ほど言いましたイスラムに関して、記述が少ないので、この点は東京書籍の方がいいと思いました。

全体としては1番目が東京書籍、2番目が日本文教出版と考えました。

○関口教育長

私の場合は選定にあたって、2点の視点を持ちました。1点目は日本と世界の地理的認識や、地域的な特色、さらに日本の領土認識や伝統文化など、基本的な事項が適量盛り込まれているということです。2点目は多くの知識を学習することから、単元の内容を整理してまとめやすい。主に2点から選んでみました。

帝国書院につきましては、教科書の構成です。学習課題から本文に入り、いろいろな投げかけがあります。この流れに沿っていくと、生徒が主体的に学習ができるように工夫されていると思いました。それから内容的にも適量の情報量だということ。さらに領土、または自然災害についてもしっかり捉えているということです。

もう一つが東京書籍でして、教科書の内容、構成につきましては帝国書院と似たような感想で

した。実際は授業で理解を深めるということになりますが、生徒が主体的に学習ができるように工夫されているということでもあります。それと領土、自然災害についてもしっかり記述されています。

したがって、帝国書院と東京書籍、この2者を候補として選びたいと思います。

○三町委員

私の視点も教育長と似ていますが、キーワードとして、特に重視されているところが、世界の諸地域の地域的特色を学ぶ項目の設定というのが、今回の学習指導要領解説の一部改訂の中で新たに設定されていること。

それから、もし日本の場合だと日本全体を地域を分けて、そして地域の特徴ある事象を中核に据えて、その他の事象と有機的に関連づけて学ばせる。そういうところがある意味、特色といったもの。そういう視点で教科書を見ました。

そうすると、それぞれについて、特色を学ぶ意味、なぜこの地域はこういうのでやっぴこうとするのかというような表現の仕方、そこに差があると感じました。子どもが、自分がなぜ地理を学ぶのか、この地域を学ぶのかというときに、こういう視点で自然豊かな地域や、あるいはいろんな都市間の連携のある地域など、そういう一つのテーマから見て、その地域を学び関連づけていく学習をするときに、なぜそれなのかというのが必要なのだろうというところで、そのまず2点。

それから、特に日本の場合、地域の特徴の視点が七つありますが、それが調べ学習での身近な地域の学習を行う場合でも、その視点が入っています。そこでその関連づけが示されているのかどうかというところ。そこはわかりやすく子どもにとって関連づけがあるのかというところも見てみました。

それから、教育長が言われましたけれども、日本の領域とか領土についての書き方などを見て総合的に判断し、子どもが学ぶ意味合いをつかみながら学習できると思ったのは、帝国書院です。

2番目を挙げるとするならば、同じような視点で、東京書籍です。帝国書院と東京書籍の2者を推します。

○山田委員長職務代理者

私はこの4者から、東京書籍1本に絞らせていただきたいと思います。ほかの委員さんからもありましたが、例えば領土という部分では、4ページにわたって地図にアクセス、さらに詳しく紹介をしております。領土、領海、領空の図も非常に見やすくわかりやすいようになっております。

また、自衛隊災害派遣の紹介というところで、これも4ページにわたって、その流れで次ページ、見開きで東日本大震災の減災への取組として紹介をしています。

あとはエネルギーの一つとして、原子力発電というものを紹介で、文末に重大な事故が発生した場合の被害の大きさ、放射性廃棄物の最終処分場の場所を決めることが難しい点などが課題で

あるというような文言あり、今後に向けた問題、課題という定義をしっかりと教えている点がすばらしいと思います。

また、233ページの地図にアクセスでは、東京オリンピックの2020年に向けてにもしっかり触れ、同じく241ページの地図にアクセスでは、再び東日本大震災に触れていて、福島第一原発事故にまつわる風評被害や放射性廃棄物、汚染水の処分などの今後の課題、問題にもしっかり触れています。

また生徒に興味関心という部分では、地理にアクセスが随所に登場して、たくさんの情報を上手にレイアウトしてすっきり学べる工夫がなされております。また27ページ、バイカル湖にダイブ、35ページ、空気がうすくても平気、67ページ、国内旅行感覚で外国へ、98ページ、ピラニアも食べますと、こんなようなタイトルも含めて文筆紹介が非常に楽しく、生徒のさらなる興味関心を高める工夫をととてもよく感じております。

○森井委員長

ありがとうございました。

最後になりましたが、私は4者の中で帝国書院のものがいいと感じました。

理由といたしましては、皆様方からのご意見と重なる部分があると思いますが、先ほどご説明のあった、平成26年度の学習指導要領解説の一部改定については、各社とも適切に取り扱っておりますが、帝国書院では、146ページで自然災害に対する備えとして、まさに関係機関やボランティアとの連携が扱われており、148ページのハザードマップを使ってみようというテーマでは、自然災害の多い日本では多くの地域でハザードマップの作成と配布が行われており、ここでは使い方について考えさせるという発展的な学習へとつなげております。

また、学習指導要領のポイントで挙げられた世界と日本の地理的認識を養うための、さまざまな学習と言語活動の充実の観点から、教科書を見ますと、例えば16ページの世界のさまざまな気候雨温図や写真、それ以降の世界各地の人々の生活と環境についても写真や図が大きく、大変わかりやすいことや、特に各地域学習の初めには、導入のための写真ページがあり、生徒の学習意欲がわくように工夫されていたり、これから学習する上での課題を示す学習課題、また授業の後には確認しよう、説明しようで、学习上、大切な事項を書き出す作業や、自分の言葉で説明する作業を紹介し、学習を振り返ろうで学習した内容を振り返って整理するといった学習の流れが大変スムーズに示されています。

地理は中学生になって初めて触れる社会科の科目として、これから歴史、公民へと学習を進める上でも重要な科目であると認識しています。それだけに世界と日本との関係性や、今日的な課題、そして歴史、公民につながる基礎的、基本的知識の習得が重要であると思います。わかりやすく、資料が充実しており、自分の考えを発信し、意見交換するための技術やノウハウを学べる教科書として、私は帝国書院が妥当であると考えます。

委員の皆様からの意見が出そろったところですが、東京書籍と帝国書院を推す意見が多かったと思います。この2者を候補ということで絞ってもよろしいでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

それでは、委員の皆様のご意見から、地理的分野につきましては、発行者名東京書籍、図書名「新編 新しい社会 地理」及び発行者名帝国書院、図書名「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」にしたいと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

次に、社会の歴史的分野に移ります。

歴史的分野について、事務局からご説明をお願いいたします。

○高橋教育指導担当部長

それでは、社会の歴史的分野の学習指導要領のポイントについて、ご説明をいたします。

歴史的分野のポイントは、先ほどの地理的分野と同様に、大きく2点、第1は基礎的、基本的知識、概念や技能の習得を重視し、各分野の内容を改善しており、歴史的分野におきましては、我が国の歴史の大きな流れの理解を一層重視し、各時代の特色を捉える学習の新設や、各事項の学習を通して、より大きな歴史の流れを理解するように、学習内容の構造化を図り、理解させるべき学習の焦点を明示しているところでございます。

第2に言語活動の充実の観点から、事象の意味を解釈する学習や、事象の特色や事象間の関連を説明する学習を重視しています。歴史的分野におきましては、学習した内容を活用して、時代を体感し、表現する活動、各時代における変革の特色を考えて、時代の転換の様子を捉える学習を通して、歴史的事象について考察、判断して、その成果を自分の言葉で表現する学習を行うということでございます。

また、歴史的分野につきましても、平成26年に学習指導要領解説の一部改訂がございました。その内容は大きく1点、明治期に我が国が国際法上、正統な根拠に基づき、竹島、尖閣諸島を正式に領土に編入した経緯に触れることでございます。

○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、歴史的分野の協議に入ります。歴史的分野につきましては、発行者8者から見本本の提出がございました。

図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい社会 歴史」、教育出版が「中学社会 歴史 未来をひらく」、清水書院が「中学 歴史 日本の歴史と世界」、帝国書院が「社会科

中学生の歴史「日本の歩みと世界の動き」、日本文教出版が「中学社会 歴史的分野」、自由社が「新版 新しい歴史教科書」、育鵬社が「[新編]新しい日本の歴史」、学び舎が「ともに学ぶ人間の歴史」となっております。

それでは皆様から、ご意見を伺いたいと思います。どなたか発言をお願いいたします。

○三町委員

歴史的分野の教科書はたくさんありまして、読んでみて、ある意味で大変勉強になりました。

その中で、子どもが学習していく上で、それを時代的に学べるかというようなポイント、とりわけ子ども自身が歴史的な事象に対して課題意識を持って考えて、自分なりに調べたり、あるいは深めたりといたり、お互いに議論をし合うなどができる、そういったようにより使いやすい教科書はどうなのかというような視点で見ました。

そうしますと、本文とそれから資料や写真等、またコラムとのバランスも一つのポイントになってきます。また人物だとか出来事についての解釈についてや、表現のバランスも必要だと思います。そういうところを、まず一つ観点として読ませてもらいました。

それから、私は社会科専門ではありませんが、定説になっていないといえますか、学説的に意見が分かれていたり、また社会的に、これは共通認識がされているのかという、そういう用語や表現がある場合には、その用語等の扱いについて併記するとか、併記されていても、その扱い方もそれぞれ違うようなので、それについても意識して読ませてもらいました。子どもが学ぶ上でそれがどう認識されるかということです。

それから、改訂のポイントの中で、とりわけ歴史通史的に年表がずっと流れていくような学習から、各時代の特色を捉える学習が重視されているというところから、各教科書がそれぞれの区分でどんな形のまとめ方をして学習させるようとしているのかという扱いの違い。それぞれその時代の特色を何々してみようとか、振り返ってみようとか、いろんな表現があります。例えば中世なら中世をどう捉えていけばいいのかということに改めて振り返ります。子ども自身が自分の考えでまとめたりグループで議論したりするときに、どの教科書がいいのかというようなところも見させてもらいました。

そして、もちろん内容的には近現代の学習のところ、戦後70年ですから、我々が生きてきた時代の歴史的な扱い方、伝統文化に関すること、それから領土にかかわるような内容も見させてもらいました。

あと個人的には元禄時代に非常に文化が発展して、その中で和算といういわゆる算数、数学が非常に盛んだったということ。それは各教科書に書かれていますが、有名な関孝和さんという方のお名前がどうなのか、そんなことを調べたりして見させてもらいました。

そして、それらをトータルで、子どもが使って、さらに教師もそれをサポートしていくというような立場で、教えることはきちんと教えながら、子どもたち自身で考えを深められるということを考えて、1番が帝国書院で、次に教育出版と絞り込みをさせてもらいました。

○山田委員長職務代理者

私は第一候補として教育出版、そして第2候補として東京書籍を挙げさせていただきたいと思っております。教育出版と東京書籍とレイアウトとしては似ており見やすく、生徒にとって、情報は多いですが、上手にレイアウトをしていて、学びやすくしているというところは同じように捉えております。

まず、教育出版ですが、地図の領土表記が最もわかりやすく見やすい、これを生徒に使ってもらいたいという感じがしました。また、鎖国という言葉ですが、本文から後に鎖国と言われるようになったとしっかり表記している点です。鎖国という言葉もマイナスイメージを私は小学生か中学生のころ学んで、余りいい言葉に捉えていませんでした。実はそれは後からつけられたということが、なるほどと今になって学んでいるところでございます。また索引がとても見やすいです。

次に、東京書籍と教育出版を見比べるため、鎌倉時代をあえて選んでみました。まず教育出版は58ページ、「一所懸命」の戦い、武家政治の成立と封建制度というタイトルと見開きです。58ページの見開きのテーマ1という単元がありますが、左上には現在の鎌倉の上空写真を添付して、当時の幕府の位置が表示でわかるようになっています。大変工夫がされています。

また、その横には、生徒に疑問や興味、好奇心を引き出すように、キャラクターの言葉として、頼朝が鎌倉に幕府を開いたのはなぜかなどと吹き出しがあって、勉強の意欲というのを高めております。またタイトルのすぐ下には学習課題として、鎌倉幕府は武士たちをどのようにまとめたのでしょうかなど、これから学ぶ時代の興味関心を高める工夫もしております。またタイトルと一緒に年表が大きく図で記してありまして、今どの時代を学んでいるのかというのが一目瞭然となっているところが、頭の中を整理できて生徒にとって非常によいと思っております。

また、右ページの右下には振り返りというコーナーで確実にというのがありまして、何々を確かめてみようや、何々を説明しようなど、ステップ1、ステップ2という形で構成されて、生徒の学びが整理・整頓しやすいような導きがしっかりあり、学ぶ上での工夫がとてもよいと思っております。また読み解こうのコーナーが、必要に応じてさらに学びの奥行きを促す創意工夫がすばらしく、言語活動にも取り組みやすい構成となっていると感じています。また写真や図案には国宝、世界遺産、重要文化財などのマークがしっかりと表示されております。こちらも興味、関心を高める工夫の一つと言えます。

また、全体の教科書のレイアウトとしては、見開きページで中心に文章を集め、両サイドには注釈や写真、図版、資料などが適切に配置、構成されておりまして、より深い学びを提供していると思っております。多くの情報を見やすく読みやすいレイアウト構成だと思います。

先ほどからお伝えしていますが、見開き2ページで1単元、テーマごとに学習が進められるように工夫され、学ぶ課題が明確に示されておりまして、歴史を正しく、楽しく学ぶ工夫が随所に見られると思っております。

先ほども申しましたが、東京書籍と非常に似ている構成になっておりまして、教育出版のほうが文章内容がわかりやすく、生徒にとっても文章からもイメージしやすく学びやすいと思いまし

た。

ちなみに鎌倉幕府の成立時期については、諸説の記入はこの教科書には特になかったのですが、私個人的には例えば初代内閣総理大臣、伊藤博文が明治天皇から命じられたとおりに、内閣総理大臣が任命後に天皇から承認するというものでありまして、源頼朝が天皇から征夷大將軍に命じられたそのときこそが幕府の成立でいいのではないかと感じているところではございます。

そして東京書籍、先ほどから申しているように、非常につくりは似ていて、学びやすいと感じております。領土では地図の領土表記が、若干比べますと、わかりづらいと思っております。また鎖国のところでは、本文では後に、鎖国と言われるようになったと伝えてはありますが、ただ注釈で、そのフォローはできている。索引は若干見づらいと思います。関東の歴史の流れをイラストでつづられ、中学1年生の導入の流れからも、生徒の興味関心を引くようなことが書いてあって、それはおもしろいと思いました。

そして見比べというところで、70ページ、71ページ、鎌倉幕府の成立というところでは、まず左上に同じく現在の鎌倉の上空写真、幕府の位置が吹き出しで表示されておりました。その横には生徒の疑問、興味、好奇心を引き出すようにキャラクターが同じように、どうして鎌倉幕府を開いたのかなどと表示しておりました。また、タイトルの横にも鎌倉を中心とした武士の政治はどのような特色をもっていたのか。これから学ぶ時代の興味関心を高める工夫を感じます。

左ページ下には、この見開きの時代、年表が下に簡素ながら図で示してありまして、どの時代を学んでいるのかがわかります。右ページ下には何々について説明しよう、何ページの図と比べて違いを挙げようなどの振り返りもしっかりとされていて、生徒の学びが整理・整頓しやすいような導きがしっかり工夫されていて、学びの上で工夫が感じられました。

全体のレイアウトでは、見開きページの両サイドの中心に、写真、図版、資料などが適切に配置構成されておりまして、より深い学びを提供していると思っております。鎌倉の幕府の成立時期についての諸説をしっかり記入してございました。

このように見比べまして、私は教育出版を、東京書籍と比べましたら、東京書籍が1歩リードしていると感じてございます。

○高槻委員

私は今回いろんな科目の教科書を見て、数学や英語など、完成度が高く、甲乙つけがたい教科書が横並びの科目と、そうではないものがあると感じました。その典型がこの歴史で、教科書ごとに非常に違い、それはつくる人の意図がはっきりあるのだと感じました。

今朝、広島市の式典で、広島市長がすばらしい演説をされて、感動しました。戦後70年の平和な国が築かれてきたという内容でした。戦争だとしてもあっちが勝った、こっちが勝ったという話になりますが、そうではなくて、もっと人類として、大事なことは何かといったようなことを教える。そういう教科書がいいのだという思いでこの演説を聞いていました。

先の戦争を「第二次世界大戦」という人がいれば、「太平洋戦争」という人もいたり、中には

「日華事変」、大東亜戦争という人がいたり、立場によりさまざまです。そういう意味で、中学生に普遍性をもった大事なことを歴史から学んでほしいという観点で比較しました。ですから、非常に特殊な価値観を主張するような教科書ははずしました。

いいと思ったものの一つは東京書籍です。まず版が少し大きくて見やすいということ。それから、いろんなバランスがいいということ。ただ、東京大空襲のことが全く書いていない点に不満がありました。全体としては東京書籍が非常にいいと思いました。

帝国書院も見やすさと、ページごとのまとまりがいいということ。それから168ページと230ページに沖縄のことをかなり取り上げています。我々が子どものころは沖縄のことをほとんど教わる機会がなかったので、沖縄やアイヌのことも取り上げていて、公正さという意味では帝国書院は非常に好感をもちました。

甲乙つけがたいですが、この2者がいいと思いました。どちらかといえば東京書籍です。

○関口教育長

それでは、私は意見の前に要望になってしまうかもしれませんが、お話をさせていただければと思います。

いずれの教科書も歴史を学ぶ導入の部分の古代の記述が少ないというのは、理解できるのですが、日本の旧石器時代の遺跡としては、現在は化石人骨が発見された沖縄県の山下洞窟、また日本で旧石器時代の最初に発見された群馬県の岩宿遺跡などは定説になっていますが、実は小平市内には旧石器後期の鈴木遺跡というのがあります。その特徴としては、遺跡の抱蔵地の範囲が広いということです。それに、当時はすり鉢状の谷の形状のところからの湧き水が出ていて、当時の人々が集まるハブ的な場所であったということが特徴と言われております。

現在、国指定を受ける準備をしております。順調にいけば2～3年後に国指定を受けることができることになっていますので、ぜひ次回の教科書に間に合えば、載せていただければありがたいと思います。

次に本題に入りますが、選定の視点としては、各委員と一緒に、大きな歴史の流れがとにかく理解しやすいということと、各時代における基本的な事象を整理して、歴史の流れを理解しやすい。また、理解を深める工夫、言語活動に配慮しているということ。この主に3点で見せていただきました。

まず教育出版につきましては、教科書の構成が基本的事項をしっかり押さえられていて、内容、または情報量も適切であるということと、私が関心をしたのは257ページの北方領土の歴史的経緯について触れているところがありまして、教育出版だけがソ連（現在はロシア連邦）と記述されております。ほかの教科書を見ていきますと、ソ連が出てきてロシア、またはロシア連邦と続けて出てきます。ソ連とロシアがどういう関係なのか、中学生にとってはわかりにくいのですが、丁寧に記述されております。

それから、先ほど山田委員長職務代理者も触れておりましたけれども、各単元で振り返りというのがあって、ここで自分の言葉で表現するといった言語活動にも力を入れているということで

す。

もう一つが帝国書院ですが、これも教育出版と同じように基本的な構成がしっかりできているということ。領土についても触れていること。ここは他者と比べると日本の古代に関する記述が非常に詳しく記述されております。本市の中学生には、歴史だけではなく、考古学的な興味関心も持ちやすいと思いますので、私としては教育出版、それと帝国書院を候補として挙げたいと考えます。

○森井委員長

ありがとうございました。

私は、帝国書院、教育出版、そして清水書院の3者で現在決めかねているところでございます。

いいと思われる点については、皆様からのご意見とかぶるところが多いのですが、3者を共通の観点で比べたときに、より良いと思えるのはどの教科書かということで見ました。

私は4年前の前の中学校教科書採択のときに、歴史の教科書には写真や図などが大変多いことから、キャラクターなどの吹き出しの必要性を余り感じないと申し上げた経緯がございます。現在もその考えに変わりがないということで、その点では清水書院がいいと思っております。

また、文字の大きさや文章表現においては、教育出版がすぐれていると思います。写真や挿し絵が大きく見やすいのは教育出版と帝国書院、学習が効果的に進められるような配慮や工夫については審議委員会から清水書院と帝国書院が考慮されているとの報告もございました。

このように3者、そのほかの皆様のお薦めになった教科書もいい点があるということから、私としては候補を絞りきれないところではございますが、皆様のご意見を総合いたしますと、教育出版と帝国書院を候補として残したいと思いますが、いかがでしょうか。

○高槻委員

東京書籍を挙げている方は何人でしたか。

○森井委員長

お二人です。

別に多数決ではありませんので、ご推薦いただきたいということであれば、今回はまた再度検討というところで候補として残すことももちろんできます。

○高槻委員

私の希望としては、教育出版と帝国書院と東京書籍の三つにしてもらいたいと思います。

○森井委員長

わかりました。では、高槻委員から3者を候補として残してはどうかとのご意見がございました。いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

それでは、委員の皆様のご意見から、歴史的分野の議案候補につきましては、発行者名東京書籍、図書名「新編 新しい社会 歴史」及び発行者名教育出版、図書名「中学社会 歴史 未来をひらく」そして、発行者名帝国書院、図書名「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

次に、社会の公民的分野に移ります。

公民的分野について、事務局から説明をお願いいたします。

○高橋教育指導担当部長

それでは、社会公民的分野の学習指導要領のポイントについてご説明をいたします。

公民的分野のポイントは、先ほどの地理的分野、歴史的分野と同様に大きく2点、第1点は基礎的、基本的な知識、概念や技能の習得を重視し、現代社会の理解を一層深め、社会生活における物事の決定の仕方や決まりの意義を考え、現代社会を捉えるための見方や考え方の基礎を理解する学習を行うこととございます。

第2に言語活動の充実の観点から、事象の意味を解釈する学習や、事象の特色や事象間の関連を説明する学習を重視しております。公民的分野におきましては、習得した知識、概念や技能を活用して、社会的事象について考えたことを説明したり、自分の考えをまとめ論述したり、議論などを通して考えを深めたりすることを重視しております。

さらに義務教育の最後に、持続可能な社会の形成という観点から、社会的な課題を探求し、自分の考えをまとめる学習を導入しております。

また、公民的分野につきましても、平成26年に学習指導要領解説の一部改訂がございました。その内容として2点、第1が北方領土や竹島に関し、未解決の問題が残されていることや、現状に至る経緯、我が国の立場や平和的な手段による解決に向けて努力をしていることを理解させること。

もう一点が、尖閣諸島については、現状に至る経緯、我が国の正統な立場、解決すべき領有権の問題は存在しないことを理解させることです。

○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、公民的分野の協議に入ります。公民的分野につきましては、発行者7者から見本本の提出がございました。

図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい社会 公民」、教育出版が「中学社会 公民 ともに生きる」、清水書院が「中学 公民 日本の社会と世界」、帝国書院が「社会科 中学生の公民 より良い社会をめざして」、日本文教出版が「中学社会 公民的分野」、自由社が「新しい公民教科書」、育鵬社が「[新編]新しいみんなの公民」となっております。

それでは皆様から、ご意見を伺いたいと思います。どなたかご発言をお願いいたします。

○三町委員

公民という部分ですが、歴史的分野と同じように、それぞれの教科書がそれぞれの思いでつくられていると感じさせていただきました。

その中で歴史と基本的には同じような視点で見えていました。特に公民の場合、公民的な見方を育てるという意味でいえば、より社会事象等々について、子ども自身が主体的に関わって、関心を持って、そして取り組んでいく、そういうところでの書き方、あるいは表現、教科書の構成等がどうだったのか。できるだけ課題意識を持って学んでいけるかという大きな視点です。

そのためには、歴史と同じですが、本文の書き方といいますか、本文での扱いと、それからそれに関わるような資料、写真等々のバランスも、大事になってきますし、その中で子どもが考えていくような活動が必要になってくるのだと思っています。

それから、内容的には今の世の中の動きでいうと、やはり選挙年齢が18歳に引き下げられるということで、まだ文部科学省の中央教育審議会でもそれについて、どういうふうに指導すればいいのか議論をきちんとされていない状況です。その中で今の公民的な分野で、現行憲法の中で権利や、義務あるいは国会の仕組みなどをいかに子どもが興味を持てるか、そして自分も権利の行使をして積極的に関わっていこうと、そんな気持ちを育てられるようになるのかという視点で、かなり広範になってくると思います。内容的には広範なんですけど、そこを記述した内容や資料等についてどうなっているのかということで見させていただきました。

それから、今、国会で話題になっていますが、自衛隊あるいは集団的自衛権の扱い。先ほど説明がありました領土等についての考え方の理解、そういうところもどんなふうにかかれているかという点。

それから、もう一つは、学習指導要領の改訂の中のポイントで、見方や考え方の基礎を養う学習ということで、対立と合意、それから公立と公正という、キーワードの中で、どの教科書会社も前半のところそういう扱いをしていました。そこでの子どもがそれを理解していく上で、どういう表現がわかりやすいのかということ。またここで勉強したことが、この後、学習していく中身とどう関わってくるのか、そういうところがわかるようになっているのかなどを意識して見て評価をしていました。

一番バランスがよい、そして生徒が学びやすい教科書として帝国書院、それから教育出版ということで整理をさせていただきました。

○山田委員長職務代理者

今、三町委員から非常に細かくご説明がありましたけれども、私もこの7者の中から、そのような観点も含めて、どちらも甲乙つけがたい状態ですが、東京書籍と教育出版を推したいと思っております。

東京書籍は、若干索引が見つらいというご意見もございますが、東日本大震災については、14ページ、15ページにしっかり記載しております、公民にアクセスでは当時の避難の様子なども記載がありました。

39ページは日本の憲法は戦前の天皇主権を否定して、これは言葉が若干誤解を招くような表現だと思いました。

40ページ、審議委員会調査報告書では、選挙権の年齢引き下げに関連する記載はないとありましたが、公民にはしっかり記載があります。訂正をしておきたいと思えます。41ページには天皇の扱いとして天皇の公務を1ページで写真を使い説明しております。

40ページ、憲法9条自衛隊の関係性です。一方で自衛隊は憲法第9条の考え方に反しているのではないかという意見もありますとあり、もう一つの意見もしっかりと記述がありまして、当時のこれは違憲ではないかという、そんなような意見が出たことに対しても記載がございました。

同じく40ページで、集団的自衛権について公民にアクセスで記述がありまして、今の旬のニュースということで、若干説明が不足しているというような一方で、違憲ではないかという意見もあるということも、多角的な意見があるということも説明に加えてほしいと思っております。

43ページ、非核三原則というところで、日本は世界で唯一核を落とされた国であることを認識させて、核兵器の解説と軍縮による世界平和を推進することが国際社会において日本の果たすべき役割なのだという、この記述は非常に生徒にとってもいいと思っております。

これに対して、生徒に集団的自衛権を武力でもって限定的な行使を可能を、どう教えればいいのか。一方で尖閣諸島の問題など、日本固有の領土が脅かされている現状を踏まえて、整理、準備をしなければいけないことがあることを憲法に則って、生徒に授業の中で伝えてほしいと、私の意見でございます。

領土というところでは、3ページにわたって記述がありますが、領土、領海については若干わかりづらいというのがありました。竹島、尖閣諸島、北方領土は日本の固有の領土であると言い切りでしっかり記述はしてございます。

竹島問題では、1954年、1962年、2012年に平和的に国際司法裁判所に委ねる提案への記載がありました。この教科書だけです。過去3回、ただ2012年まで第2回の裁判所への提案から50年という開きがあるということに年号が書いてあることで学べると思えます。これは生徒にぜひ知ってもらいたいと思えます。

182ページの原因事故の件に関して、原子力発電の見直し、182ページの深めようというところでは原因事故と福島県の復興についての記述もありました。ただ、いまだに事故が終息したとは言えない状況という表現が中途半端だと思ひまして、終息していないとはっきり記述する

べきじゃないかと思っております。

そして、エネルギーというところで、もう一つ、一方で世界のエネルギー政策ではドイツ、オーストリア、イタリア、ベルギーが国内の原子力発電を段階的に廃止する脱原発方針を決定したことを記載しております。原子力発電依存の70%の、フランスでも依存度を減らす方針の発表があったことに対して、生徒にはこの日本の政策の甘さという議論をしてもらいたいと思います。原発依存といっても、日本で30%くらいはありますけれども、世界と比べて日本はどうかというようなところも、ぜひ学んでほしいと考えております。

教育出版も基本的には同じような状況で、東日本大震災の扱い、国内外から救援物資が届けられた件を記載しているとか、中学生が読んだ俳句の「みあげればがれきの上にこいのぼり」というのを写真付で紹介したりとか、また女川のいのちの石碑の紹介もあり、津波到達点より高いところに建てる予定だとか、そういったものも紹介していいと思いました。

原発事故の見直しという点では、203ページにあります。記述が不足しているんじゃないかという点もあります。41ページ、天皇の扱い、天皇の公務を1ページで写真を通して、しっかり説明がございました。

この教育出版の特徴だと思います。右ページ、右下には振り返りコーナーが確実にありまして、何々を確かめよう、何々を説明しよう、このステップ1、ステップ2の構成が生徒の学びにとって整理・整頓しやすいような導きがあって、学ぶ上で非常にいいと思っております。

自衛隊の役割と存在というところでは、一方で自衛隊の持つ装備が自衛のための最小限の実力を超えるものだとして、憲法に違反しているという主張もあると多角的に記述がございました。これもいいところだと思います。

68ページ、自衛隊のところでは、下段に1991年の湾岸戦争で財政面に限られた日本の貢献に国内外で議論が起こったと、当時もその文章を覚えています。要はここから流れ的に集団的自衛権というものが教科書的に接続がうまくあったらと感じておりました。ただ、その近くのページで、集団的自衛権について内容がありますが、見出しが特になくて、どこに触れているのか一瞬見つけづらいというのが気になりました。

そして77ページ、選挙というところで選挙権の年齢引き下げの記載はないと認識しております。私が見落としていたら申しわけございません。

180ページ、領土の下段左の領土、領海、領空の図が非常にいいです。わかりやすくなっていると思います。

東京書籍、教育出版のどちらも良いところ、悪いところも列挙しましたが、この2者をお薦めしたいと思います。

○高槻委員

公民という科目は、まだ教えるべき内容が固まっていないという印象を受けます。例えば領土問題は地理で教えるという部分もあるだろうし、政治の中の歴史的な部分はまさに歴史で教えるというところがあって、教科書によって顔の出し方が違うという印象がありました。

でも、政治と経済と、国際問題と環境問題を、この科目で学んでもらうことが大事なのではないかと思います。帝国書院と教育出版が勉強しやすいのではないかと感じました。

私は野生動物の保全や、環境問題というのに関心があるので、そういう内容を公民の中で教えて欲しいと思いました。しかし、それは非常に乏しくて、帝国書院で環境問題と野生動物の問題が少し取り上げているくらいでした。あとは育鵬社が少し取り上げていました。それは全般に弱かったので、今後に期待したいと思いながら、帝国書院1番、教育出版2番、と考えました。

○関口教育長

私の場合は、公民という教科につきましては、まずは現代社会の基礎、基本的な仕組みや制度を学んで、多様な考えがあるということ学ぶことだと思います。そこから、さらに自分の考えを言葉で表現させる、言語活動です。これを生かしながら、大人になるための準備段階として、課題解決に向けてどういった解決方法、手段を選んでいけばいいのか。こういったことを学ぶのが最終的な目的と考えます。

そういった観点も踏まえまして、見させていただきました。帝国書院は、教科書の構成もきちんとできていますし、26ページでマンション問題を解決する手法としてロールプレイングを取り入れたり、32ページのところで中学生が地域社会を動かすということで、身近なテーマを使いながら、民主的な手段や方法を紹介しています。これは大人になっても役立つ手法と思います。それから、領土に関してもしっかり記述されております。まず、帝国書院を候補として挙げたいと思います。

そのほかに清水書院出版、これも教科書の構成はしっかりされていて、領土に関しても詳しく記述しています。それから155ページでしたか、現代課題についてもしっかり捉えています。AB判の教科書と比べると、全体として文字情報が多く、生徒にとっては知識を整理しづらいのかと思いました。

それからもう一つは教育出版で、清水書院と同様、教科書の構成はしっかりしています。58ページのところで、言葉で伝え合うということで、ディベートの手法を用いています。248ページのところでは、領土に対して詳しく記述されていますので、これも本来は選びたいのですが、53ページの介護の仕事に関する記述のところで、誤解を招くような記述があるということと、紙質のせいか、手ざわり感がざらざらしているのが残念です。

今回は帝国書院1者に絞りたいと思います。

○森井委員長

ありがとうございました。

皆様方からさまざまな会社のご意見がありましたけれども、私といたしましては、帝国書院、教育出版、清水書院のものがいいと感じました。

地理・歴史と学んできた生徒にとって、公民という聞きなれない教科を今までの中学校社会科の学習の集大成と位置づけるために、3者とも学習を始めるにあたって、生徒に向けてのメッセ

ージや、公民を学ぶ上での指針を示しております。

帝国書院は年齢に応じてできることとして公民を身近なところから始め、そしてよりよい未来の実現のために公民を学ぶことの大切さを示しています。

教育出版では、公民の学習のキーワードをもとに、持続可能な未来を築くためにできることを自分なりに見つけるために公民で学ぶ主な内容、公民で意識したい具体的な学び方、そして学びの記録としての公民のノートづくりを示してわかりやすく説明しています。

清水書院は学習の初めにと題し、公民とは何か、次に個人と社会とし、社会の中の個人としてのあるべき姿や、ともに生きていくために公民の学習が必要であること。そして、現実を学ぶことと理想を求めることとして、公民の学習を通して、目指すべき理想をしっかりと見据えることの大切さを示しています。

また、学習を深めたり、自主学習を進めるための資料について、帝国書院は日本国憲法を初めとして、参考法令集として、26法令、教育出版は32法令、清水書院は29法令を掲載しています。

帝国書院では、公民の基礎的な技能を身につけるコラムである技能を磨くや、未来の社会をつくるための参考になるコラムなどを多く掲載しています。

教育出版は学習から興味や関心を広げるための公民の窓、また学習を深めるクリップというコラムがあり、本文の欄外には補足説明や、振り返るで学習の確認を促しています。

清水書院ももっと知りたい公民で、学習に関連するテーマを図や写真を中心に解説し、さらに興味関心を広げ、社会を多角的に見ることを定着させ、深める公民で学習に関連するテーマを掘り下げて説明することで、さらなる知識と理解を深める内容になっています。

学習指導要領のポイントでご説明のあった義務教育最後の学習として、持続可能な社会の形成の観点から、社会的な課題を探究し、自分の考えをまとめる学習の導入ということで、3者の最後の学習内容としては、帝国書院はよりよい社会を目指しての中で、1年の学習内容を振り返りながら、持続可能な社会の形成のために何をすべきかについて、課題設定し、レポートにまとめさせる学習に取り組ませています。

教育出版では、私たちにできることとして、持続可能な未来のために、未来の自分に約束をつくるという学習を通し、自分から発信し、他者との意見交換の中から、ともに生きる社会の実現に向けて、輪を広げていくことの大切さを伝えています。

清水書院は持続可能な未来への中の未来をつくる君たちへで、よりよい社会の形成者を目指して、卒業論文を書くことを通して、テーマ設定、情報収集、調査の段階を経て、論文を作成し、発表するという学習につなげています。

3者ともに意義深い学習であり、どれも小平の子どもたちに学ばせたい内容であるというふうな感想を持ちましたが、皆様方のご意見を総合いたしますと、教育出版と帝国書院のものを候補として残したいと思いますが、いかがですか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

それでは、委員の皆様のご意見から、公民的分野の議案候補につきましては、発行者名教育出版、図書名「中学社会 公民 ともに生きる」及び発行者名帝国書院、図書名「社会科 中学生の公民 より良い社会をめざして」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

次に、地図に移ります。

地図について、事務局からご説明をお願いします。

○高橋教育指導担当部長

それでは地図のポイントについて、ご説明いたします。

先ほど地理的分野でもその有効活用について、ご説明申し上げましたが、学習指導要領社会の指導計画の作成と内容の取り扱いにおいては、指導の全般にわたって、資料を選択し、活用する学習活動を重視するとともに、作業的、体験的な学習の充実を図るようにする。その際、地図や年表を読み、かつ作成すること。新聞、読み物、統計その他、資料に平素から親しみ、適切に活用すること。

観察や調査などの過程と結果を整理し、報告書にまとめ、発表することなどの活動を取り入れるようにすることがあります。地図はこれらの活動を進める上でも欠くことのできないものとなります。

○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、地図の協議に入ります。地図につきましては、発行者2者から見本本の提出がございました。

図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい社会 地図」、帝国書院が「中学校社会科地図」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたかご発言をお願いいたします。

○高槻委員

地図は2種類ですが、甲乙つけがたいと思いました。どちらも版の大きさも同じくらい、厚さも同じくらい、それから各地域の説明があって、その個別の、産業や気候などの説明あるという形もよく似ている。

これは好みの問題になるかもしれませんが、全体に東京書籍の色が渋く、曖昧です。帝国書院

が派手だがはっきりしている。

我々はずっと子どものころから帝国書院に馴染んでいるので、見てわかりやすいとは思いました。でも、これは余り重要な基準にはならないと思います。

社会科の地理の教科書がどれになるかにも、連動するかもしれませんが、勉強する側からすれば、東京書籍になった場合に、地理の教科書も東京書籍のほうが同じキャラクターが出てくるので、勉強しやすいということはあるかもしれません。

日本の領土の問題で、帝国書院が一番後ろに境界が青の線で、すっきりと書いてあります。東京書籍は国境のラインがピンクで、海流が赤い線で書いてあって、ごちゃごちゃしています。帝国書院のほうがすっきりしている。あえて甲乙をつけると、帝国書院10、東京書籍9くらいの違いです。

○森井委員長

ありがとうございました。

ただいま高槻委員から地理と地図の関連についてということで、ご質問がございましたけれども、その点についてお答えいただくことはできませんでしょうか。

○高橋教育指導担当部長

あえて同じにしなければならぬというものではございません。地図は地図で各社さまざまな工夫をしておりますので、その地図の内容でお決めいただければと思っております。

○関口教育長

私も高槻委員と一緒にして、2者とも地図帳としての機能がなくて情報量も豊富であります。

特徴としては、帝国書院が色調がやや鮮明で、東京書籍のほうが色調が控えめ、抑えめというような印象があります。

よく何回もページを見てみると、東京書籍のほうが紙質なのか、私の手の感覚の違いなのか、紙面がざらざらした感じがして、それがとても残念だと思います。その程度の違いですので、私としては両方候補に挙げたいですが、あえて1者を選ぶとすると、帝国書院を選びたいと思います。

○三町委員

二人の委員のお話を聞いて、本当にうなずくところがございました。

地図は、主に社会科の学習の中で使っていくということになるかとは思いますが、使いやすさというのであれば、本当に甲乙つけがたいと思います。資料の見出しは、東京書籍がわかりやすいと思います。それに対して、帝国書院は少し見にくいと思います。色合いについても若干違いがあって、好みの部分になってくるのかというところがありました。

地図としての内容もありますが、資料という側面もあるので、帝国書院が資料としては多いの

かというところでは、また日本とアジア、東アジアも含めて、大陸から見た日本の地図など工夫もありました。

帝国書院が領土、領海、領空というところも含めて、しっかりとわかるように書かれています。領土に関するところは東京書籍も帝国書院も扱っていますが、帝国書院のほうがきちんと書かれているような感触を持ちまして、1者に絞るとしたら、帝国書院ということにさせていただきました。

○山田委員長職務代理者

非常に悩みまして、ほかの委員の皆様が言っているように、デザイン性でいきますと、東京書籍が、洗練されていると思います。カラーバランスにすぐれていて、フォント、フォントサイズのバランスも非常によく、情報量が多い中で全体的に非常にすっきり見やすい地図となっています。

一方で、東京書籍と帝国書院のどちらも赤字なんですが、帝国書院は国をあらわす文字が赤字、赤字に対しての縁取りが黒で、見づらい原因です。東京書籍は、赤い字に対して白の縁取りで非常に見やすくなっています。

ただ、私も帝国書院が非常に使い勝手と親しみがありますので、もっと深く見てみました。

日本と近隣諸国で見比べてみたところ、東京書籍は23ページ24ページ、東アジア、日本を中心にみると、国境ラインもしっかりしています。竹島の文字はあるのですが、本当の縮尺で書かれているので、点も何も見えないです。そのくらい本当は小さい島なんだというのがわかります。帝国書院はあえて、これ縮尺としては正しくないのかもしれませんが、ここに竹島があると、その価値があります。東京書籍は本当の縮尺だろうと思います。本当に小さく見えないものですが、帝国書院は見せている。この縮尺では竹島は確かに見えないはずだというのはわかった上で、東京書籍はあえてそういった意味で正しいのかもしれませんが、ただ地図を確認する上では、しっかり標示して欲しい。

あとは竹島というルビが書いていないのが東京書籍です。対馬、要は国境ラインの島が何という島かというのがしっかり必要だと思ったので、対馬も東京書籍は未記入です。対馬という文字がまずありません。尖閣諸島の文字とルビはあるのですが、これも小さい島なので、存在が認められないのが東京書籍です。帝国書院は一応何か、ここにその島があると存在は確認が取れる状況にはなっている。

与那国島が東京書籍は文字として未記入という。また択捉島は記入しているけれども、何と読むのかわからない、ルビが書いてない、帝国書院はルビも書いてある、こういう差があります。これが日本と近隣諸国で見た国境ラインを文字としてしっかりと、地図としても学ぶ上で認識ができるといったところが帝国書院です。

もう一つ見比べたのは日本地図です。東京書籍は73、74ページ。帝国書院は78～80ページにわたっています。帝国書院は母国を3ページにわたって大きめに、大切に扱っているのがわかります。竹島、国後島を写真付で紹介したり、文字情報で韓国、ロシアがここに占拠してい

るといふことも明記しています。前のページでも尖閣諸島が写真付きで日本の国有の領土であるといふことも文字でも紹介をしています。といった意味で配慮が随所に感じられるのは帝国書院です。

また、やってみようというコーナーで、生徒に距離を測らせる工夫や、地図を見る目なんていうのも、生徒にとっては学べる工夫があると感じます。

関東の地図を見比べてみました。つまり我々は生徒にとってどちらの地図を使ってもらいたいかといふことで、関東を見ますと、小平市の表記があるのは帝国書院です。残念ながら東京書籍は小平市という文字が載ってないと思います。帝国書院は私も使っていたので、小平市の記入があった小学校時代に、ここだなというのは自分の住んでいる町ですから、小学校時代によく見ていました。大事なことだと思います。地元の生徒に使ってもらいたいといった意味では、やはり小平市の表記があるのは必要だと思いました。

あと地図を見る目というところで、東京に鉄道や道路が集まっていることに注目しようといふところなど、東京書籍と比べ、デザイン的な洗練さに改善の余地があることを踏まえても、私は帝国書院を推薦したいと思います。

○森井委員長

ありがとうございました。

私は東京書籍がいいと思いました。先ほど、皆様方から帝国書院は色合いがはっきりしているのご意見も出ましたけれども、まずは地図として見たときに、東京書籍のいいところは落ちついた色調で全ての生徒の色覚特性に合うようにデザインされていること。また長時間見て学習する際の生徒に負担が少なくなるような配慮がされているという点であると思いました。

また、資料としても効果的にキャラクターやイラストを配し、生徒にとってわかりやすく親しみの持てるようなつくりになっているという点がいいと感じましたが、確かに私も学生の頃から帝国書院の地図を教科書として見ていて、見なれているという点からも、皆様方の意見に同感できるところもございます。皆様方の意見も総合いたしまして、地図につきましては、帝国書院1者に絞らせていただきたいと思います。いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

それでは、委員の皆様のご意見から、地図の議案候補につきましては、発行者名帝国書院、図書名「中学校社会科地図」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

次に、数学に移ります。

数学について、事務局からご説明をお願いいたします。

○高橋教育指導担当部長

それでは、数学の目標及び学習指導要領のポイントについて、ご説明をいたします。

数学の目標は数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理、法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し、表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや、数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり、判断したりしようとする態度を育てるでございます。

学習指導要領のポイントとして3点、第1に数学的活動を一層充実させ、基礎的、基本的な知識、技能を身につけ、数学的な思考力、表現力を育て、学ぶ意欲を高めることでございます。

第2に数学的な思考力、表現力を育成するために、根拠を明らかにして、筋道立てて考えたり、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、自分の考えを説明したり、伝え合ったりすることの指導を充実することでございます。

そして第3に、生徒の学習を確実なものにするために、新しい内容を指導する際に、既に指導した関連する内容を再度取り上げ、学び直しの機会を設けることでございます。

○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、数学の協議に入ります。数学につきましても、発行者7者から見本本の提出がございました。

図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい数学」、大日本図書が「新版 数学の世界」、学校図書が「中学校数学」、教育出版が「中学数学」、新興出版社啓林館が「未来へひろがる数学」、数研出版が「中学校数学」、日本文教出版が「中学数学」となっております。

それでは皆様からご意見を伺いたいと思います。どなたかご発言をお願いいたします。

○三町委員

数学ですが、今説明がありましたように、数学的活動を通して、知識を身に付けさせる。あるいは思考力、判断力等を育てていく。また表現力を育てていくということで、数学ではそういった学習活動、問題、ある課題を解決する過程の中で発揮した数学的な考え方や、そこでできた新たな知識、そういったものを学習過程を振り返りながらしっかりと身につけていく。もちろんその前の前提としてきちんと教えることを教えないといけないのですが、こうした生徒の主体的な活動を非常に重視されている教科だと受けとめています。

そうした中で、教科書の書き方に差が出てくるのではないかと思います。3年間で学ばせる内容というのは基本的に押さえられていますので、それをどう扱いながら子どもが学ぶのか。今の学習指導要領から新たに、小学校から中学1年生等に上がった指導内容や高等学校から下りてき

た内容がありますので、そこを絞り込んで、数学的な活動という点から調べてみました。例えば、新たに「集合」という言葉が中学1年生で扱われるようになったのです。昭和40年代後半から、中学校数学にも集合論を取り入れ、これまでの数学を「集合」というものの見方からとらえて学ばせようとしていました。それが失敗に終わり、直接扱うことがなくなっていました。その扱いは今回はどうかというところで、その扱い方が、集合論を学ばせるのではなく、例えば数字が今までゼロとプラスの数しかなかったものが中学校に入ってマイナスも増えると、その中で計算ができるようになった、そうすると、そこで改めてそういったいろんな種類の数を捉え直す意味で、数のまとまりとして「集合」という捉え方をここで新たに入れたということですから、詳しく記述することはないのではないかと私は思って見ていました。そういう視点で見ると、教科書によって、ある程度軽く扱われていたり、しっかりと定義、明らかに集合の定義になることが書かれていたりしていましたが、その内容の扱い方をよく見させてもらいました。

それから、「比例式」についても1年の指導内容に入ったので、その扱い方を見てみました。まず問題場面が与えられて、そこから問題を解いていく過程で小学校でやった比の値を利用して、それから「比例式」という概念につなげていくというような指導を意識した教科書と、すぐに「比例式」が出てきてその意味を説明し、それは適用して問題を解いてみる、極端な言い方ですが、それに近い指導法と感じられる教科書。当然、前者のほうが良いと思っています。

それから「移動」も扱いが中学1年生となりました。「移動」には、平行移動、回転移動、対称移動がありますが、そこでの扱い方に違いがありました。基本的に平行移動などの用語を定義し、こういう図を書いてみましょうというような教科書と、例えば敷き詰めがたくさんあって、その中で同じ図形がここここにあります。これは、どんな動きをすると重なるのか、そういう見方の中から平行移動だとか回転移動とかを捉えさせようとする教科書。私はより後者のほうが良いように思いました。それからもう一つ、近似値と有効数字という例えば0.0カロリーという表現がありますが、数学でまたそれをきちんと扱おうということで出ていきます。そういうときの扱い方も、どういうふうにも子どもにこれを学習をさせるのかという扱い方です。やはり実際の商品で扱われている表現の違いから疑問をもたせて学ばせる教科書があります。やはり子どもにとって考えていく必然性から出発し、新しい概念を生み出していくという、取り扱いが良いのではないかとこの視点です。

そういうところと、あとは審議会報告書の教科書の違いといいますか、例えば連立方程式が加減法と代入法とで分かれていますし、二次方程式の解き方が因数分解の形のものから入っていくのと解の公式から入っていくのがあります。それから素因数分解の扱いが、中学3年生の第1章で扱っているところと2章で扱っているところがあります。このことを見てみました。加減法と代入法については、二つの文字を一つにしようということでの考え方です。つまり二元方程式を一元方程式に帰着させるということ。そういう考えでいえば代入法のほうが、一見自然には思いますが、調べたら圧倒的に加減法が多かった。それはなぜかという、実際の場面で最初に出てくる式が、基本的に何とかXプラス何とかYイコール数字みたいな基本の形が出てくるものが多いんです。だから、代入法の問題場面は一つは何とかXプラス何とかYイコール数字、そ

れからもう1個は、Yイコール何とかXという場面を無理してつくりださないと出てきにくい部分があったようです。やはり実際の生活場面からの問題をどうやって解決すればいいのかと考えると加減法が、多くの場面で自然であり、ある意味で今の考えの主流なのかという感じで受けました。

それから平方根、解の公式の扱いというところ、3年生の二次方程式の解き方のところが因数分解を用いた解き方と解の公式と入り方が分かれていますのですけれども、これも扱い方にはよりますが、その前の単元というか章で、平方根を勉強しています。これはどの教科書も平方根を勉強しているので、そうであれば、今度二次方程式の解を求める方法を考えるときに、平方根の考えを利用しようとするのではないかと思います。前の単元学習したことを生かして、問題解決しようという思考は当然と考えると、解の公式を先に扱うほうが自然かと感じました。

それからもう一つ、素因数分解の扱いが3年の第1章、多項式の学習の中で扱っている教科書がほとんどで、1者だけ第2章の平方根で扱っているという指摘がありました。調べてみましたら、やはりどちらがどうということははっきり言えないのかもしれませんが、私は第2章での扱いの方が必然性があると感じました。平方根を勉強するときに例えばルート90幾つをルートの中の数を小さくしようとします。その方法を考えるときに、90幾つは2かける幾つと数を積の形で分けていきます。そういう必然性から、こういうふうに素因数分解をするんですよといったほうが、いわゆる問題解決をするところに出てきた新たな概念ということで学んでいくということでは、これは1者だけでしたが、これは自然だと思いました。

そのほか、ノート指導の視点、そんなことをまとめて見ますと、そういうことをかなり強く意識しているのは東京書籍ということで、第1に東京書籍を推したいと思います。そして2番目、それに近づけてということというところと教育出版ということとでございませう。

○高槻委員

質問ですが、平方根の話をした後に素因数分解をするという意味は、便宜上の話ということですか。べき乗が頭に入っているから素因数が理解しやすいということですか。

○三町委員

平方根というのは2乗した値が幾つという、そのもとになるものが平方根です。その考え方をを使って二次方程式を解いていこうということに。つまり、 X^2 マイナス4イコールゼロみたいな式を考えると、 X^2 は4だから、じゃあXはプラスマイナスの2だと、そういう平方根の考え方をを使って解を求めるほうが自然だということです。これが、一般的な二次方程式においても同様の考え方をを用いて、平方完成の形に変形して解を求めます。さらに、それを一般化して解の公式を導いていくという流れです。

○高槻委員

私はそういう高度なことはわからなくて、要するに問題を解く勉強をするための本が教科書であるという感じで捉えていて、そういう意味で中学生が勉強をしやすいのはどれかというふうに

見ると、大日本図書と東京書籍がいいと思いました。

東京書籍のほうは、いきなり問題が出てきます。それで、ただ単元が一番最初のところに考えさせる、例えばグラフが出てくるとか、ある事象について、あまり詳しく書かれていない。これは先生にその力量を任されているので、うまくいけばとてもいいと思いました。それが東京書籍に関する印象です。

大日本図書も考えさせる形になっていて、先生次第ではすごくいいと思いました。中学3年生の大日本図書の教科書の始めにのところを読んで、私は驚きました。ここには「中学生の皆さんがこれから生きていく世の中は民主主義の社会です」と数学の本にないようなことが書いてあるのでびっくりしました。そこでは、「みんなで議論し合い、相談し合って、決まりや約束事を決めて行動していきます」、「一人ひとりが筋道を立てて考えることができないといけない、ほかの人の主張を冷静に受けとめ互いに理解し合う、そのために数学の論理的な考え方が重要」だということが書いてありました。私の中学校のときの数学の教科書にこんなことは全く書いていなかったもので、驚きました。中学2年生の扉にもいいことが書いてありました。ただ数学の問題を解くのであればそれは問題集であり、塾の作る問題集解決本であればいいわけです。そうではなく、こういう合理性や民主主義の考え方を数学の教科書で教えようとしているのなら、素晴らしいことだと思います。ただ、私は実際に書いてある内容を読むと相手の意見を聞けるような考え方になれるかどうかというのは判断が付きません。

それから、後ろのほうに「マスフル」というページがありました。これはマスマティックスのマスと、フル、満ちているの意味だと思いました。ここに書いてあることが非常におもしろくて、例えばフラクタル、同じ形がくり返されて、例えばシダの葉っぱを見ていると先っちょにもこういう形があって、全体を見てもそういう形になっているというような話だとか、ギターのフレットが倍音になっていって、音楽と数学が実はつながっている話だとか、数学的なものの考え方の裏話のようなおもしろい話題がたくさん書いてありました。日本の和算のことも書いてあり、大日本図書のファンになるような感じをもちました。ということで、1番が大日本図書、2番が東京書籍です。

○山田委員長職務代理者

三町委員が完全なる数学の分野のスペシャリストでございますので、一から学ばなければと思っておりますけれども、私も東京書籍です。全然違う観点ですけれども、やはり生徒に興味、関心を持たせる工夫といったところで、生徒にこれを使ってもらいたいという目線から、全体を見て東京書籍が非常にいいと思いました。

まず、各章の導入として1ページ全体を写真やイラストを用いて、生徒にその章のイメージを膨らませて、また、その最初の例題が生徒の身近な題材を取り上げることで、とても生徒の興味、関心を高める工夫をしています。その題材、たとえの流れをそのままに続いて計算式を導き出していく流れ、授業の流れ、スムーズな流れになっています。とにかく、各章のたとえばが中学1年生から中学3年生まで、毎回、私にとっては興味をそそられる題材が非常にたくさんあってとて

も楽しかったです。これは、数学を学ぶ上で生徒にぜひ使ってもらいたいと思いました。

また、例、確かめ、問いの流れによって理解度の確認ができたりとか、よく生徒に見られる誤った解答を取り上げて正しい解答の仕方がしっかりと定着できるような工夫もこの東京書籍は見られます。また、ちょっと確認、もっと練習など、生徒の個人差に対応した学びの工夫も見られます。あと、ページの右下のパラパラ漫画も他者にはない工夫だと思いますが、これは、正直要らないと思っている次第でございます。いろんな生徒もいますので、これも一つの工夫ではないかと思いました。

全体的に文章がわかりやすく、基礎、基本等の発展問題も、問題力、バランスも適切だと思います。中学1年生の導入として、巻頭のページをめくると「数学の世界へようこそ」、そこに小さくページ数、次の矢印、283ページとあるので、そこに飛びますと巻末の解説に飛びます。そして、そこには140ページへとあるのでまたそこに飛ぶと、関連する学習につながっていきます。この導入において既に興味、関心を高める工夫が非常によく、この東京書籍の教科書のつくり方というのが、視覚からも訴えてイメージを膨らませて興味を持たせて学びにつながっていく、このようなスムーズな連携が非常によく、東京書籍を薦めたいと思います。

○関口教育長

委員さんからいろんなご意見が出ていますが、私としては、現実的な見方からすると、数学は中学生になると比較的好き嫌いがはっきりしてくる科目ですので生徒にとって基礎、基本の確実な定着が期待できること。それと、発展、応用まで取り組めるように工夫されているということ。さらに、習熟度別授業や少人数指導に対応しやすいという、点で見させていただいたのですが、その中で東京書籍は、ちょっと確認、もっと練習など、基礎、基本の既習事項を振り返る構成でわかりやすいというのが1点あります。

それから、基本問題を初め問題数がたくさんあります。量があればいいとは思ってはおりませんけれども、習熟度別授業や少人数指導に対応しやすいと思います。

それから、非常に数学が好きで、もっと深めたいという発展、応用までいきたいという生徒さんには情報を正確に取り出して、それを分析して解決する力を身につける工夫として、中学1年生の206ページ以降、資料の分解と活用というもの、これは非常に充実していると思いますし、巻末の資料も充実していて、生徒が興味、関心を持って日常生活にも活用できるような資料が載っているということで、今回は東京書籍を候補として選びたいと思います。

○森井委員長

ありがとうございました。皆様からご意見をいただきまして、私も東京書籍と教育出版のものがいいとの感想を持っております。皆様のご意見と重なる部分もありますので、あえて申し上げますが、特筆すべきは東京書籍の審議委員会からの報告によるカラーユニバーサルデザイン及び特別支援教育の観点からの工夫があるということ。また、図や説明も大きく明瞭なのでわかりやすく、大切なポイントもしっかり押さえていることから、生徒に数学の基礎、基本を習得する

上で重要であることなどが挙げられると思います。

また、教育出版につきましても、編集趣意書に、特に留意した点として、定義に関する事項には黄色の網をかけ、公式や定義の枠組みには緑色の網をかけた上に図を合わせるなど、視覚的にも理解を促す工夫があるというようなことが生徒の基礎的、基本的な知識、技能の習得の助けになると記載されておりますことから2者がいいという思いではありますが、ただいま皆様方からのご意見をいただきまして、委員全員が東京書籍を推しておりますので、今回この1者に絞るといふことで、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

それでは、皆様方の意見から、数学につきましては、議案候補として、発行者名東京書籍、図書名「新編 新しい数学」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

次は、理科でございますが、冒頭に申し上げましたように、ここで休憩をとりたいと存じます。4時20分まで休憩といたします。

午後3時53分 休憩

午後4時20分 再開

○森井委員長

それでは休憩前に引き続き、理科から協議を再開いたします。

理科について、事務局からご説明お願いいたします。

○高橋教育指導担当部長

それでは、理科の目標及び学習指導要領のポイントについてご説明をいたします。

理科の目標は、自然の事物、現象に進んで関わり、目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探求する能力の基礎と態度を育てるとともに、自然の事物、現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養うでございます。

学習指導要領のポイントとして、大きく2点。

第1に、問題を見出し観察、実験を計画する学習活動。観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動。科学的な概念を使用して、考えたり説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮することでございます。

第2に、科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていることに触れること、また、理科で学習することがさまざまな職業などと関係していることにも触れることです。

○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、理科の協議に入ります。理科につきましては、発行者5者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい科学」、大日本図書が「新版理科の世界」、学校図書が「中学校科学」、教育出版が「自然の探究 中学校理科」、新興出版社啓林館が「未来へひろがるサイエンス」となっております。

それでは、皆様からご意見を伺いたいと思います。どなたか発言をお願いいたします。

○高槻委員

中学生ぐらいになると勉強がだんだん難しくなって、苦手意識を持つ中学生も増えてくると思います。特に数学のように理論的、抽象的な科目はそういう傾向があります。一方で、科目によっては技術・家庭とか保健のように知識をたくさん身につけるといったタイプの科目もあります。そう考えると、理科には両方があって、知識も覚えてもらう必要があるけれども、その知識に基づいて科学的なものの考え方を習得する、そういうことが重要だろうと思います。

そういう観点で教科書を見まして、私が一番よいと思ったのは大日本図書でした。先ほど言ったような観点から言いますと、大日本図書は中学の1年生は植物から入っています。理科の中で物理学、化学などは純粋科学のほうに近いので、苦手意識を持つ子も出てきますが、植物というのは目に見えて、庭で栽培するというようなこともあって、中学1年生の春に新緑が芽生える季節に植物からこの理科を始めるという工夫がしてあると思いました。中学2年生になって動物、中学3年生になって生態学と発展していくので、見やすさとか理解のしやすさ、表現の仕方、あるいは表紙も含めて大変すぐれていると思いました。少しつけ加えますと、原子力についてもある程度の記述があって、3・11の問題の後ですから、そういうことがこれまでにはあまりなかったもので、その点でもいいと思いました。

2番目は、啓林館の教科書がいいと思いました。これも同じように植物から入っています。大日本図書に比べると地震のことが詳しく書いてありました。ただし、生物学の分野でいいますと、生態学に関する記述はかなり弱いと思いました。それから、別冊になっているので、これは少し使いづらいし、無くしたりする心配もあります。

その意味でも大日本図書が一番いいと思いました。物理学や化学についての勉強は少ないのですけれども、全体としてそう思いました。

○三町委員

理科ですが、やはりこれも先ほどのご説明にもありましたように、特に目的意識を持ってとい

うキーワードが、私は非常に重要だと感じました。観察実験の目的意識を持ってやり、そのためには、どういう構成になっているかということが大事だと思います。何のためにこの実験をやるのか、あるいはどのような方向でやればその実験は成功する、そういうような書き方はかなり大きな観点だろうと思います。その問題解決的な実験、観察等へのアプローチの仕方というところのポイントを一つ押さえさせてもらいました。

それから、その前段にはなりますが、理科を学ぶということでの全体の学習の見通しというところも大事なので、その視点も一つ入れました。それから、基礎基本がきちんと身につくのかどうかというようなところ、実際の使いやすさというような扱い、そういうところで、私は、これはどっちとも言いがたいのですが、東京書籍と大日本図書とさせてもらいました。

ただ、それぞれのデータの違いが気になりました。一つは、ほかの教科書も若干違っていたエネルギー資源がどこまで持つかということです。可採年数が、東京書籍で、例えば石油が46年と書いてあって、大日本書籍は54年、これも同じ2012年の統計結果と書いてありました。天然ガスが東京書籍では59年、大日本図書では64年でした。そういうデータものの扱いはどうなのかと思いました。

それから、大日本図書の中学1年生の音の学習のところで「音の速さを実験でやってみよう」というのがあります。校庭かどこかわかりませんが、20メートル間隔で人が立ち、スターターが音を打って、それを聞こえたところで各自手を挙げる、それで音の速さを見ようとするものです。それを大きく取り上げているのですが、これは現実的ではないと感じました。1秒間に300メートル以上の速さで進む音を視覚的に捉えさせること自体無理であり、実際に校庭もそんなに直線距離が取れない状況なので、学校の実態と合わない実験だと思いました。

それから、福島原発に関する表記の中で、東京書籍は「放射性のセシウムが徐々に減っていくと考えられています」という表現で、30年ぐらいかかるとあったので、「徐々に」という表現でいいのかと気になったところと、大日本図書は逆に、原子力利用の書き方が少し書き込み過ぎている、公民とかそういう分野で扱えばいいと思うところもまで書き込んでいたので、そういう強弱はありました。特に「音」の実験は、どうなのかと感じました。

○山田委員長職務代理者

私は、委員の皆様のお話から、もちろん大日本図書も悪くないと思っはおりますが、あえて東京書籍1者を挙げたいと思っております。

東京書籍の構成は本当に上手と申しますか、中学1年生のところの導入の部分がとにかく興味、関心を高める工夫があり、章の頭に大きな写真が使われていて、そんなようなつくりから学びに進んでいく接続が上手と感じております。単元1の植物の世界のページが大きくはみ出た太陽に二人ぶら下がっている写真など、驚くような写真を用いたり、花のつくりと働きのところでは、片栗の種子の写真に目を奪われてしまいました。何かこれから学ぶ植物の世界に一気に引き込まれる感じを受けました。こういったようなスケールの大きい写真で生徒が興味を持って前のめりになって学んでくるのが目に浮かびました。

「科学でGO」の幾つかあります中で「7万年間積みもり続けた奇跡の地層」、例えばこのようなタイトルだけで思わず目をひきつける、心を奪われる工夫もいいと感じております。

審議会調査報告書でも割と自然の事物、現象に興味、関心を高められるような写真やイラストが多く、文章も読みやすいと思いますし、基本的な内容と発展的な内容がはっきりと分けられていた、使いやすい、教材の構成や配列に科学的に探究しようとする力も育もうとする意図が感じられる単元が多いと思っております。

○関口教育長

生徒にとって理解しやすく基礎、基本の確実な定着が期待できる教科書ということ。それと、もう一つは生徒に興味、関心を持たせながら発展、応用まで取り組めるように工夫されていること、この二つの視点で選んでみましたところ、東京書籍と大日本図書を挙げたいと思います。二者とも中学1年生で植物の第二分野から始まっていますので、導入部分で目に見える分野から入ったほうが好ましいと思います。

東京書籍は教科書の学習配列や構成、さらに内容が充実していますので、基礎、基本の確実な定着が期待できるということ、生徒に取り組みやすい教科書という視点で選びました。

それから、その対極にあるのが大日本図書でして、やや説明や文章量も多いです。その分、幅広い知識と能力が得られるということで、興味や関心のある生徒にはこちらの教科書のほうがふさわしいと思い、あえて候補としては東京書籍と大日本図書の二つを候補として挙げたいと思います。

○森井委員長

ありがとうございました。

ただいま皆様方からのご意見を伺いましたが、私といたしましては、東京書籍と大日本図書がいいと思います。意見を同じくするところも多々ございますが、私が東京書籍で決め手としたいのは、まず、基本操作で顕微鏡や上皿てんびんの使い方などを大変丁寧に扱っていることが挙げられます。実験器具の操作や観察の方法がきちんと示されているということは、先ほどご説明のあった学習指導要領のポイントの第1の問題を見出し、観察、実験を計画する学習活動、観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮することのための大切な第一歩であると思います。

それ以外にも、東京書籍は全体的に写真や図が大きく見やすいこと、キャラクターの吹き出しが生徒の意欲、関心を引き出すのに大変効果的に使われている点もいいと思いました。また、中学3学年では、後半の「科学技術と人間」と「持続可能な社会を作るために」で科学技術が日常生活や社会を豊かにしてくれることや、地球規模での現在の課題と未来に向けて、身近なところから始めようという生徒に向けてのメッセージを強く感じました。

また、大日本図書も写真や図が大変わかりやすく、基本操作や巻末資料で観察、実験の留意点や器具の使い方などがまとめられています。審議委員会からの報告にも、生徒が教科書を読むこ

とで自学自習ができるような構成になっているとありました。「暮らしの中の理科」では、学習内容が日常生活や社会でどのように活用されているかがわかり、またプロフェッショナルでは、学習内容にかかわる職業の話題を取り上げるなど、学習指導要領のポイントの2番目についてしっかりと取り組まれています。

以上の理由から2者を挙げましたが、皆様方の意見を総合いたしまして、東京書籍と大日本図書を候補として残したいと思いますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

それでは、皆様のご意見から、理科につきましては、発行者名東京書籍、図書名「新編 新しい科学」及び発行者名大日本図書、図書名「新版 理科の世界」が議案候補として妥当だと存じますが、いかがでございますか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

次に、音楽の一般に移ります。

音楽の一般について、事務局からご説明をお願いいたします。

○高橋教育指導担当部長

それでは、音楽の目標及び音楽一般、それから、この後ご協議いただきます器楽の学習指導要領のポイントについて、あわせてご説明をいたします。

音楽の目標は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化について理解を深め豊かな情操を養うでございます。

学習指導要領のポイントとして3点。

第1に、表現活動及び鑑賞活動において共通に必要な能力を示した共通事項を新設し、音楽を特徴づけている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受したり、自己のイメージや思いを伝えあったりすることを重視すること。

第2に、鑑賞において和楽器を含めた我が国の音楽の指導を充実するとともに、楽曲の諸要素や構造と曲想とのかかわりについて感じ取ったことを言葉で説明する場面を設けること。

そして第3に、歌唱共通教材を学年ごとに必ず1曲以上扱うとともに、我が国の伝統的な歌唱の指導を充実させることでございます。

○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、音楽の一般の協議に入ります。音楽の一般につきましては、発行者2者からの見本の提出がございました。図書名を申し上げますと、教育出版が「中学音楽 音楽のおくりもの」、教育芸術社が「中学生の音楽」となっております。

それでは、皆様からご意見を伺いたいと存じます。

○山田委員長職務代理者

一応、音楽が私の専門分野でございますので、私から意見を述べさせていただきたいと思っております。私は、教育芸術社を推させていただきたいと思っております。

まず、比較しながら説明しますが、例えば国歌、君が代に関しましては、もちろん2者とも扱っておりますが、教育芸術社は1ページですっきり収まっております。対しまして、教育出版は2ページに若干譜面がまたがっていて、1ページに収めたほうが良いという意見を持っております。

また、目次、教育芸術社は1曲ごとに曲の捉え方の説明がありまして、歌唱、創作、鑑賞とさまざまな体験ができることが一目でわかりやすいと思っております。

一方で、教育出版は見開きで収まっておりますが、若干、説明不足を感じている部分があります。

そして、これは発声の部分をどちらも捉えていますけれども、教育芸術社は結構細かく書いてございます。細部にわたり丁寧に説明がありまして、私は、プロの音楽家として、全ての説明、文言に納得、共感をしました。また、悪い例や気をつけることなども明記してあるのでいいと思います。中学2、3年生の上では、きれいな日本語の忘れられつつある発音として鼻濁音の説明もあって、これも非常にいいと思っております。

また指揮について、これは全教科書に中学1年生から3年生まで載っているのですが、教育芸術社はこの数字のカウントを書いてある位置がしっかり正しく書いてあって、それを見てしっかりと指揮を振れるようになっております。また、強弱や曲の雰囲気指揮で表現することまで見開きでしっかりと伝えている。教育出版に関しましては、そのカウントが書いてある位置が、これだと打点が全くわからず、説明どおりに振ってみようとしたのですが、振れませんでした。

そして一番大事に思っているのが、どういった曲を扱っているか、選曲というところで、教育芸術社の、まず1年生、導入の部分です。これから始まる中学校生活の最初の曲として、とても優しい歌詞ではありますが、未来への可能性を感じることができる詞でございます。そして、曲に関してはアップテンポで、フレーズとして4小節単位の作曲、展開も発展性があり覚えやすく、見開き2ページという完結でありながらも二重唱もしっかり学べ、大変すぐれた作品で、これは新曲だと思いますが詞もメロディーもいいと思っております。そういった意味で、初々しい春を感じた1年生の最初の曲として、春を感じさせていただきました。また、2、3年生の上でも、導入曲としてはこの選曲もまたいいと思っております。歌詞の内容も情景、心情ともにすごく感じられます。曲も4小節単位の長めのフレーズからの展開もとてもいいですし、サビの二重

唱は広がりがあって歌詞とのバランスが非常に良く、名曲に感じております。中学校生活の歩みの夏から秋を感じます。1年生が春なら今度は夏、秋、だんだんに意識を進めている感じを受けました。

また、2、3年生の下では、導入曲で滝廉太郎の花で一旦また春を感じとれますが、ページをめくるごとに徐々に季節感が冬に向かっていく感じを受けました。この3冊で季節の四季感を含めて、春夏秋冬も含めて、入学から徐々にしっかりと卒業に向かっていくというのをすごく感じました。すばらしいつくりと、詞の内容も含めた選曲で、教科書の作り手の思いが伝わってきました。

それに、著作やコンプライアンスについてもしっかりと入れていたりもしますので、そういうところも特筆すべき点ですので、教育芸術社を推したいと思います。

○森井委員長

ありがとうございました。

では、私から先に意見を述べさせていただきたいと思います。ただいま山田委員長職務代理者から教育芸術社を候補とする旨のご意見を伺いましたが、私は正直なところ、まだ2者とも甲乙つけがたいところで迷っています。

ただ、前回の教科書採択でも重きを置きました君が代の扱いについて両者を見させていただきました。どちらも国歌として歌詞の意味を掲載しておりますが、教育出版はさらに他国の国歌を尊重するよう示しており、1年生の教科書ではオリンピックの表彰式における国歌、君が代についての写真が掲載されています。

また、同じく発展的な内容として、東京都教育委員会の教科書調査研究資料によると、2、3年生下の教科書には、防災や自然災害の扱いとして東日本大震災後の岩手県の小学校で行われたワークショップやコンサートの様子の写真や震災復興への願いを歌詞にしたスマイルアゲインの楽譜が掲載されていることなどが特徴であるといえます。その他については両者とも学習指導要領に基づき、正確、公正に編集されており、各教材において基礎、基本の確実な習得を助ける内容であるという審議委員会からの報告もありますので、皆様方のご意見を伺って、さらに考えていきたいと思っております。

○高槻委員

勉強会で、音楽はどちらともつかなかったのですが、山田委員長職務代理者から教育芸術社のよいところを伺い、そのつもりでもう一度見てみました。我々はモルダウと習いましたが、スメタナのブルタバと書いてあったので調べてみたら、モルダウと言いはオーストリアの呼び方で、チェコではブルタバと言うことがわかりました。私の研究者の友人でチェコの人があります。チェコの指揮者クーベリックは外国に逃げるように暮らしていましたが、1992年に戻ってきてプラハでこの曲を演奏して、みんなが泣いたという話を聞きました。教育芸術社の教科書にはこれが非常に丁寧に書いてある、モルダウという呼び方は実はチェコではないのだとい

うことも聞いたりした。そういった理由で教育芸術社がいいと感じました。最初の意見と違いますが、教育芸術社に優先順位を決めました。

○三町委員

揺れています。山田委員長職務代理者のお話の中で、曲そのものについてそうなのかということで、そこまで私はわかりませんので、そこは山田委員長職務代理者の話に重きを置かなきゃいけないという思いが今あります。

それから対比的に見ていたので、山田委員長職務代理者と同じような視点で見たものもあります。例えば姿勢の問題とか、あるいは目次の扱いとか情操教育にかかわるようなところ、そこでの評価が少し違うと思ったので、そこだけ触れておきます。

例えば、姿勢については本当に丁寧に教育芸術社は書いてあって、非常にわかりやすくというのがありますが、生徒はそこまで読み込むのかという思いがあります。ポイントだけを絞って言葉で書いてあったほうが子どもにとってはかえってわかりやすいのかと思い、二重丸をつけたところがあります。語源については、どちらも目標は明確に書いてあると思うので、これはイーブンで評価しています。

それから情報教育に関わっては、著作権等の扱いですが、私は中学3年生というレベルで考えると、教育芸術社では、ややレベル的に内容として低いと感じました。これぐらいは教育出版のレベルの内容を書いたほうがいいのではないかと思いますので、若干そちらのほうを推します。民謡、我が国の伝統文化という点で、民謡の扱いをちゃんと両方とも扱っているのですが、印象として教育出版のほうがイラストやアイコンで非常にわかりやすく、何か民謡等の楽しさが伝わってきます。それに対して教育芸術社はちゃんと説明しているのですが、やや良さ等が伝わりにくい感じがしました。若干、教育出版ということでしたが、非常に揺れておりまして、また今イーブンか、場合によっては自分の見方よりも山田委員長職務代理者の見方のほうがいいのかと思いつてきました。教育芸術社にしたいと思います。

○関口教育長

2者とも皆さんと一緒に、基本的な事項は押さえていますし、さらにいろんな資料を活用し、豊富な知識や技能を習得できるように工夫されています。

教育出版は、教科書として見ると目次が單元ごとに見やすく、すっきり構成されています。それから三町委員からもお話がありましたけど、1年生の40ページ、41ページで日本の民謡と芸能について写真と言葉で丁寧に紹介されております。

一方、教育芸術社につきましては、学習の目当てが明確に示されているということと、ここがわかればグレードアップや、確認しよう、達成意識など、こういったものを見ていくと、歌唱の実践的な学習に向いていると考えまして、私としては教育芸術社を候補として選びたいと思います。

○森井委員長

それでは、委員の皆様のご意見から、音楽の一般につきましては、発行者名教育芸術社、図書名「中学生の音楽」が議案候補として妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

それでは、引き続きまして、音楽の器楽合奏の協議に入ります。音楽の器楽合奏につきましては、発行者2者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、教育出版が「中学器楽 音楽のおくりもの」、教育芸術社が「中学生の器楽」となっております。

それでは、皆様からご意見を伺いたいと思います。

○山田委員長職務代理者

これも私から気がついたことを述べさせていただきたいと思います。器楽に関してはイーブんだと思いますが、強いて言うならば、教育芸術社のほうが打楽器も網羅していて、楽しいと思っております。全体にどちらも勉強になる、私も専門じゃない楽器に対しても非常に学びが感じるものが多いです。例えば、巻末のリコーダーとギターとキーボードの運指表というのを見比べると教育出版のほうが、勉強になるというのもありますので、甲乙つけがたいのですが、審議会調査報告書を見ますと、教育芸術社は発達段階に則し生徒が興味、関心を持てる曲も多い。簡潔に各楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を確実に身につけることができるように丁寧に解説され、わかりやすい工夫を感じる説明文も絵でわかりやすく、関連資料も豊富でさまざまな視点で学習が行えるよう配慮されていると私も思います。この器楽の教科書でさまざまな楽器に興味を持つきっかけに生徒になるには、一つでも打楽器というものも網羅している教育芸術社が一步リードしているので、教育芸術社をお薦めしたいと思います。

○森井委員長

ありがとうございます。

私から述べさせていただきます。器楽についてもそれぞれにいい教科書で本当に迷うところがございますが、ただいま山田委員長職務代理者からも運指表のことが話題に出ましたけれども、見やすさの点からいけば教育出版と思いますが、とじ込みページになっています。3年間使用する教科書なのにとじ込みページでいいのかという点が心配ではあります。審議委員会からの報告としては、楽譜が若干教育出版のほう大きいのではないかというような報告もございますが、それほど大きさの違いを感じるということもありませんでした。

器楽についても、小平の子どもたちにとってどちらがより良いのか迷うところですので、皆様のご意見を参考にさせていただきたいと思います。

○高槻委員

私は何とも言えなくて、本当にイーブンです。

○三町委員

私も非常に悩んではいたところですが。確かに教育芸術社は打楽器の分があるので、そこには差があると思いました。子どもが使うときという視点で見ると、例えばそのアルトリコーダーの指導内容やそのステップを比較してみると、どちらが子どもにとって身につけやすい、奏法を見つけやすいのか、専門的にはわかりませんが、自分ならばという視点で言うと、教育出版のほうの方が丁寧な感じを受けました。

それから、琴ですが、生田流だとか山田流のツメの違いとかそういったポイントが写真で非常に見やすかったと思います。それから、曲も教育出版のほうが、それぞれさくらさくら等以外のところで子どもが興味を持つようなところもあるのか、そういったところで若干の違いがあり、私は教育出版ということで、今のところ考えています。

○関口教育長

2者とも説明もわかりやすく簡潔に示されています。決め手というのが正直言って難しいです。確かに、言葉で説明しようとする、教育芸術社は打楽器が追加されているという非常に大きな特徴ですし、教育出版は先ほども言ったとおり、楽器の演奏を写真でポイントでわかりやすく、教科書としてはすぐれているのと私は思います。ただ、これは音楽の教科書なので、楽器を扱うので、そういった面では、私としてはどちらかと言えば一般音楽と同様に教育芸術社を残していただきたいと考えます。

○森井委員長

ありがとうございました。

今、教育長のおっしゃったキーワードや、器楽ということで楽器を扱うということに重きにおいて、打楽器がより多く網羅されているということも考慮して、教育芸術社を候補にしたいと思いますが、いかがでしょうか。

ー異議なしの声ありー

○森井委員長

それでは、器楽の議案候補として、発行者名教育芸術社、図書名「中学生の器楽」が妥当かと存じます。いかがでございましょうか。

ー異議なしの声ありー

○森井委員長

次に、美術に移ります。

美術について、事務局からご説明をお願いいたします。

○高橋教育指導担当部長

それでは、美術の目標及び学習指導要領のポイントについてご説明をいたします。美術の目標は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め豊かな情操を養うでございます。

改定の際のポイントとして2点。

第1に、新教育基本法の伝統を継承し新しい文化の創造を目指す教育を推進するという趣旨を踏まえ、目標に美術文化についての理解を深めが追加されたこと。

第2に、共通事項は、小学校と同様に表現及び鑑賞の各活動において共通に必要な資質や能力となるものであり、その指導の充実を図る必要があるということです。具体的には、生徒に視点を持たせ、気づかせる指導の工夫が必要になります。

○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、美術の協議に入ります。美術につきましても、発行者3者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、開隆堂出版が「美術」、光村図書出版が「美術」、日本文教出版が「美術」となっております。

それでは、皆様からご意見を伺いたいと思いますが、私から先に申し上げてよろしいでしょうか。

意見を申し上げる前に、少し確認したいのですが、候補の3者のうち1者が3冊構成になっておりますが、そのことについては何かしらご説明いただけるようなことはございませんか。

○高橋教育指導担当部長

特にございません。ほかの教科書も分冊等ございますので、同じ取り扱いで構いません。

○森井委員長

ありがとうございます。私は開隆堂出版と光村図書出版で迷っています。

まず、開隆堂出版は巻末に工具箱や色彩ホームページで美術の基礎、基本の習得を図る工夫があり、題材ごとの振り返りの4観点である美術への関心、意欲、態度と発想や構成力、構想の能力、創造的な技能、そして鑑賞の能力の中で、どのような力がついたのかを確かめながら学習を進められる構成になっています。また、審議委員会からの報告には、題材間で関連する学習内容を明確にした6～10ページで展開する大型の題材も設け、学校の実情に合わせて題材を選択し、

柔軟な指導計画が立てられる工夫がされているとあり、指導者にとってもよい教科書であるのではないかとの感想を持ちました。

また光村図書出版も、巻末の学習を支える資料で、基礎的な技法や資料が第1学年に掲載されており、目次も内容が一目でわかるつくりとなっています。また、各ページの左上には項目と領域が色分けされており、学習がスムーズに進められるような工夫もあります。また、項目ごとに目標が設定されており、生徒に気づきを促す配慮もあります。東京都教育委員会の調査研究資料では、扱っている作品数は3者中一番多いことも特徴の一つです。

また、美術文化についての理解を深めることが目標に追加されたことによる対応として、開隆堂出版は2、3年の巻末に、人の表現から見る美術の歴史として年表がとじ込まれてあり、「伝統の美に学ぼう」では和服や和菓子に取り入れられた形や色彩、模様の組み合わせから日本の伝統的な美意識や日本らしさについて学ぶ教材も工夫されております。

光村図書出版は、トピックス美術史として飛鳥、奈良時代の仏像やルネッサンス、印象派やジャポニズムを経て、美術の現在や日本の世界遺産などに加え、美術史年表も巻末に掲載されています。どちらの教科書も、見て楽しく美しいものであり、生徒の興味、関心や発達段階に応じた内容であり、生徒の制作意欲を促す教科書であると思います。

以上ですが、まだ迷っているところがございますので、皆様方のご意見も伺いたいと思います。

○山田委員長職務管理者

私は、実は日本文教出版を推してございます。巻頭の「出会って広げよう」「学びを深めよう」「美を探し求めて」は3冊ともどれも表紙のタイトルとなっていて、それぞれの学びが読み取れます。1年生の教科書では、同じ年ごろの生徒の作品を14ページにわたって取り上げているということも非常にいいと思っております。この教科書、表紙、背表紙が少し固めなのか真っすぐに閉じてしまうことが気になってしまう1点だけ挙げさせていただいた上で、インタビュー、柴田文江さんのページも雑誌のようなおしゃれな感じですが、さすが美術の本というだけあります。

また、「1枚の紙から広がる世界」というところでは、これはとてもシンプルでかつ作品ができ上がったときの驚きと達成感、感動を感じられます。「私の気持ちをカードに込めて」、これは同じく作品が仕上がったときのおしゃれ感と満足感と達成感を、普段身近にあるカードをデザインすることで生徒の興味をより駆り立てる出会いを演出していると思っております。作ってみたいと思えるページです。「暮らしに息づく木の命」、こちらに関しては、毎食ごとに使用する食器を木のぬくもりを感じられるアプローチが非常にいいと思っております。特に生徒の作品はいいと思っております。

巻末では、審議会調査報告書にもあるように、基礎的能力を育めるようにさまざまな技法を網羅していると思っております。2、3年上では最後の晩餐^{ばんさん}、これはとても有名な作品で、どちらの教科書も扱っていると思っておりますが、さらに授業では一歩踏み出して、キリストから見て右隣の人物が実は女性である、マリアだと言われているとか、またキリストとマリアの間の逆三角形が聖杯を

あらわしているのではないかなど謎の多い作品で、こんなことも授業で取り上げてもおもしろく、この作品を取り上げたからにはそんなようなことも生徒により興味を喚起してもいいのではないかと思っております。観音開きで原寸大の葛飾北斎の2点を紹介しておりますが、このみ和紙を使用していることで浮世絵の作品の良さを引き出して、生徒により本物に近いものを提供している。すばらしいと感じています。また、見開きで漫画を紹介しております。日本が世界に誇る漫画をもっと紹介してもいいと思いました。手元に置いておきたい実用的な教科書だと思っております。2、3年下では工業デザイナー奥山さん、スポーツカーや未来の車のスケッチがまた夢を感じさせてくれます。全ページ、デザインが本当に細かくて、3冊とも私は夢中で見入ってしまったということで、こちらの日本文教出版をお勧めしたいと思っております。

○高槻委員

美術的な表現力や鑑賞能力、感性、美術文化の理解を目的とするときに、私自身は直接自然を見ている人間ですので、美術作品よりも直接自然から美を感じるということがあります。人にはそういう感覚があると思います。

そういう意味でいいますと、日本文教出版の教科書の1年生の50ページに花や動物などを取り上げてあること、それから2、3年生の本の53ページに写真の撮影のことが載っています。写真と美術の関係というのは昔から議論がありますが、美しいと感じたものを写真に撮るということ、今はデジカメも発達しているので、教科書としてあげてあることはいいと思いました。それから、山田委員長職務代理者が言われたように、北斎の和紙のページというのは非常に印象的なので、全体としてはここが一番いいと思いました。

もう一つは光村図書出版で、さっき言ったのと同じ理由ですが、1年生の63ページに棚田の非常に美しい写真が載せてあること、それから2、3年生の80ページに、写真撮影のことが取り上げてありました。甲乙つけがたいですが、北斎の絵のすばらしさという点で日本文教出版が1番、光村図書出版が2番です。

○三町委員

私も悩みましたが、最終的には光村図書出版を推したいところです。内容的には今のお話の中で、それぞれの教科書でいいところがあることは、私もそのとおりだと受けとめています。

その中で、例えば、光村図書出版は原寸に近いものということであると、モナリザだとか葛飾北斎の絵などがありますが、ここで私がすごいと思ったのは、2、3年の鑑賞のところで「平螺鈿背円鏡」のデザインです。実際には、まず触れられないもので、それを拡大し、細かいところまで当時つくられているということが見えて、感動するような、私は印象を持ちました。そういうところで非常に印象に残っています。

それから、2、3年合本と上下という扱いについてですけれども、学習指導要領を見ますと、2、3年を一括りとして指導内容が示されているということを考えると、生徒の状況によって題材を選ぶときに、合本のほうが柔軟に選べるのかと思います。これは開隆堂出版と光村図書出版

で、そういうところで合本のほうがいいという気がしております。

最終的に、光村図書出版だと決めたのは、2、3年の巻末に歴史年表がありまして、そこに明治、大正、昭和の偉大なる彫刻家、平櫛田中さんの鏡獅子が紹介されていたからです。非常にローカルな話ですけれども、大変すばらしい方が小平にいるということで、あえて選ぶならば小平のことが載せられているものにしたと、そういう思いで光村図書出版とさせていただきました。

○関口教育長

私も正直言って決めかねているというのが事実です。学習指導要領では想像力の育成は従来から掲げていますが、新しく美術文化への理解を深めるに関しては、新しく加われました。あとは鑑賞教育の充実です。この美術文化への理解を深めるというところに注目しながら見させていただいたのですが、これからのグローバルな時代に対応していくには、日本を初め世界的ないろいろな作品を鑑賞する力を身につけることも大切であるという視点で見たのですが、光村図書出版については、これはアジアや世界の作品も日本を初め紹介されています。それから見開きの大胆な写真と文字、構図、非常にデザイン性にもすぐれていると思いました。開隆堂出版については生徒の作品を多く紹介されています。それと日本の伝統文化、掛け軸などの作品も紹介されています。日本文教出版はこの生徒の作品以外に鑑賞が重点を置かれていると思います。それから巻末の資料が充実しているので、皆さんのご意見を参考にしながら、もし今回絞れなければ、次回に自分なりに絞りたいと思います。

○森井委員長

ありがとうございました。

見本本が3者提出されております。それぞれに大変すばらしい教科書であることから、意見をまとめるのは大変な作業であると思いますが、今までの皆様のご意見を総合すると光村図書出版については候補として残してもいいのではないかと思います。また、日本文教出版については、お二人、山田委員長職務代理者と高槻委員が推していますが、いかがでしょうか。

○山田委員長職務代理者

これは夢中で私、見入ってしまったとお伝えしたとおり、すごく楽しい教科書です。小平の生徒にも興味、関心、わくわくする教科書を使ってもらえたらうれしいと思いましたので、もう少し絞りたいところではございますが、私も光村図書出版を再度に強調させていただきたいと思いますので、ぜひお残しいただきたいです。

○高槻委員

もう一回改めて見させてもらいたいということで、日本文教出版を残してもらいたいと思います。

○森井委員長

わかりました。

では、それでは皆さんのご意見から、美術につきましては、発行者名光村図書出版、図書名「美術」、発行者名日本文教出版、図書名「美術」を議案候補として残したいと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

次に、保健体育に移ります。

保健体育について、事務局からご説明をお願いします。

○高橋教育指導担当部長

それでは、保健体育の目標及び学習指導要領のポイントについてご説明をいたします。

保健体育の目標は、心と体を一体として捉え、運動や健康、安全についての理解と運動の合理的な実践を通して生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持、増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む体動を育ててまいります。

学習指導要領のポイントとして2点。

第1に、目標及び内容を第1学年及び第2学年と第3学年の二つに分けて示し、運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身につけさせ、生涯にわたって運動に親しむことができるように発達のみとまりを考慮し指導内容を整理し、体系化を図っていくことでまいります。

第2に、保健分野につきましては、医薬品に関する内容を取り上げるなど指導内容を改善し、みずからの健康を適切に管理し改善していく思考力、判断力などの資質や能力を育成する観点から、健康の概念や課題に対する内容を明確にしていることでまいります。

○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、保健体育の協議に入ります。保健体育につきましては、発行者4者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい保健体育」、大日本図書が「新版 中学校保健体育」、大修館書店が「保健体育」、学研教育みらいが「新・中学保健体育」となっております。

それでは、皆様からご意見を伺いたいと思いますが、私から先に意見を申し上げたいと存じます。

私といたしましては、4者のうち学研教育みらいと東京書籍のものがいいと感じました。

まず、学研教育みらいですが、巻頭で教科書の構成と学習の流れが示されており、1時間の学

習の主な流れを学習の目標で学習を通して身につけることを確認し、ウォームアップで授業を始める前に今までの経験や持っている知識を生かして取り組み、そして本文と資料とで基礎、基本の知識を学習し、エクササイズで考える、話し合う、調べるにつなげ、活用しようで学習を通して体得した知識を活用することにつなげるといった流れが、見通しを持って授業を進める上で大変有効であると感じました。また、思春期特有の悩みや相談ごとに寄り添う形のカウンセリングルームやコラムも充実しています。各章の最初には、その章で学ぶことが、小学校で学んだこと、そして高校で学ぶことと系統立ててあり、小・中連携がしやすくなっていることや、先ほどの学習指導要領の保健分野のポイントとしてあげられた医薬品に関する内容についても充実していることなど、編集趣意書には現代的な健康課題や題材を豊富に掲載しているとの記載もございました。

また、東京書籍も巻頭で教科書の使い方が丁寧に説明されており、審議委員会からの報告では、保健編と体育編が学年ごとになっているのが特徴的で、学習しやすい内容であること、また教科書への書き込みスペースや章末問題があるため、学習ノートなどが必要ないのではということでした。

どちらの教科書も図や表など視覚に訴える教材については工夫されており、第二次性徴の図なども発達段階に合っているとのこと、現時点では1者に絞りきれていないといったところです。皆様方のご意見を伺いたいと存じます。

○関口教育長

この教科書については、中学生にとって効果的な学習ができるように教材の配列や構成が工夫されているかといった観点から見させていただきました。まず、東京書籍については、目次のところで学年ごとに保健と体育の学習内容が区分されていて、生徒にわかりやすいというのがあります。それに、教科書の構成の「やってみよう」本文、「考えてみよう」で構成されておりますので、学習課題がわかりやすく構成されているということと、A B判ですので、紙面を全体的に見るとすっきりしていて見やすい感じがします。

もう一つ挙げたいと思っていたのが学研教育みらいです。こちらも基本的な事項の説明や情報量は十分ですが、B版であるということで、東京書籍と比較すると文字や図、写真、資料がやや小さく感じますので、私は東京書籍を候補に選びたいと思います。

○山田委員長職務代理者

私はこの4者の中から東京書籍を推したいと思います。東京書籍と学研教育みらいを挙げつつ見比べましたが、喫煙の部分を見比べますと、東京書籍はこの喫煙とか飲酒とか薬物の内容の適切な対処ということでそういったきっかけ、断る意思や勇気、そういった適切な対処について生徒にわかりやすく順序立てて学べる工夫が具体的にしっかり出されています。

それに対して学研教育みらいは、「喫煙と健康」というところで、健康の害であるとか喫煙、飲酒の健康の害、そういったところにとどまっている。それに関して、どう断るかとかそういっ

たところまでもう一步踏み込んでいるのが東京書籍でしたので、こちらを選んでおります。また口絵とか、東京書籍、「スポーツの力、スポーツを支える人、健康や安全を支える人、スポーツ選手、スポーツを支えるという人」ということで監督やコーチ、マネージャー、健康や安全を支える防災職員やがん研究者、助産婦とか、さまざまな人物をクローズアップして、キャリア教育的にも感じられるのかわかりませんが、生徒の興味、関心もそそる導入となっていると感じました。東京書籍を推したいと私は思っています。

○三町委員

私はとりわけ保健分野を見ましたが、特に中学生ということで第二次性徴の関わりのところ、森井委員長からもありましたけれども、そういったところでの視点で発達に則した形での内容であったり悩みに対する対応だったり、あるいはこの時期のストレスの対処法などそういったところで、内容的を比べました。

それから、資料は豊富で、その資料と本文との関連がどうなるのか、そういったところも見てみました。そうしたところで絞り込んだところ、東京書籍と学研教育みらいです。どっちがというのが決めにくいところですが、確かに、ストレス解消法などのところを読み比べると、東京書籍のほうが子どもに対して具体的な形での例示が結構あると思いました。この2者ということで考えています。

○高槻委員

私も学研教育みらいと東京書籍がいいと思いますが、本の厚さから学研教育みらいがほかのものよりも厚く、情報量も多いと思います。教科書というのは、いわゆる試験の勉強をしないといけない、そのための勉強するという、そういう意味でいうと東京書籍ぐらいの情報量がいいのかもしれないけれども、保健体育に関していえば、それを全部マスターするというよりも、自分が関心があるところを読む、情報を得るという要素もあって、特にこの思春期の中学生が親にも相談しにくいこと、そういうことがたくさん書いてあるのはいいと思います。ドラッグの問題や喫煙の問題、そういったようなことも1ページに一つぐらい取り上げていて、そのために分厚くなっている感じがします。そういう意味では学研教育みらいのほうが私はいいと思いました。

○森井委員長

ただいま委員の皆様から東京書籍、学研教育みらいということで2者あがっておりますが、皆様のご意見ではあまり触れられませんでした。体育編でも学研教育みらい、東京書籍とも私はよい教科書であるという感想を持っています。特に、東京書籍は学年ごとに必要なスポーツに対する知識や文化としてのスポーツの意義など、豊富な資料と確認、活用の問題で体育の分野にも言語活動を取り入れる工夫がされており、バランスのよい教科書であるという感想を持っておりますし、学研教育みらいでも「スポーツの多様性と効果と安全」という項目と「文化としてのスポーツ」の項目を設定し、保健体育の目標である生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成

と生涯にわたりスポーツを親しむための基礎的、基本的な知識及び運動や健康、安全についての理解を深めるための内容がわかりやすくまとめているという意味で、どちらもいい教科書であるというような感想を持ちましたので、ただいまご意見が出ましたところで、東京書籍と学研教育みらいということで、2者を候補として残したいと思いますがよろしいでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

それでは、委員の皆様のご意見から、保健体育の議案候補につきましては、発行者名東京書籍、図書名「新編 新しい保健体育」及び発行者名学研教育みらい、図書名「新・中学保健体育」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

次に、技術・家庭の技術分野に移ります。

技術分野につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

○高橋教育指導担当部長

それでは、技術・家庭、技術分野の目標及び学習指導要領のポイントについてご説明をいたします。

技術分野の目標は、ものづくりなどの実践的、体験的な学習活動を通して材料等加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的、基本的な知識及び技能を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てるでございます。

学習指導要領のポイントとして4点。

第1に、ものづくりの技術が我が国の伝統や文化を支えてきたことについて取り扱うこと。

第2に、内容について持続可能な社会の構築やものづくりを支える能力の育成の重視など、社会の変化に対応する視点から改善をされていること。

第3に、題材の設定については、各項目及び各項目に示す事項との関連を見きわめ、相互に有機的な関連を図り系統的及び総合的に学習が展開されるように配慮をすること。

第4に、実習等の結果を整理し、考察する学習活動や生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮し、言語力の育成を図るということでございます。

○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、技術分野の協議に入ります。

技術分野につきましては、発行者3者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」、教育図書が「新技術・家庭 技術分野」、開隆堂出版が「技術・家庭（技術分野）」となっております。

それでは、皆様方からご意見を伺いたいと存じます。

○関口教育長

この教科については、生徒により、生活体験というのはそれぞれの家庭で異なってくると思います。そういった意味では得意、不得意、興味、関心が分かれる教科だと思います。習得する意義とか実生活に役立てるのに大切だということが明確に示されていたほうがいいと思います。それと、作業や実習がありますので、安全面への配慮がされていること。この2点で見させていただきました。

そういった点では、東京書籍は、これはA B判ですので、審議委員会の報告書にもあったと思いますが、作業手順が左から右ページに見開きで見やすくまとめられていることから実習には向いている。また、安全面への配慮がされているということと、初めて学ぶ教科として習得する意義や実生活に役立てるという目標が明確に示されている教科書だということです。

開隆堂出版ですが、こちらはB版ですので、東京書籍と比較すると余白も少なく文字が小さく、実習のときには使いやすいと思います。両方とも情報モラルについてはきちんと触れられておりますので、あえて選定するとこの2者ですが、私としてはA B判の東京書籍を選びたいと思います。

○森井委員長

ありがとうございます。

私から先に意見を述べさせていただきます。

教育長のご意見を伺いましたが、私も東京書籍がいいと思っております。技術は広い意味でも、ものづくりの教科であると思います。そのためには、基礎技能を習得するための工程がわかりやすく示されていることが重要であり、東京書籍は教科書のサイズはA B判で大きいのですが、作業の手順や実習などの流れが理解しやすい点が優れていると思います。

また、キャラクターによる吹き出しは学習を進める上での助けとなり、小学校や他教科との関連についてもわかりやすく載せられています。各編には学習のまとめのページがあり、学習した内容のふり返りや学習指導要領のポイントの一つである実習の結果を整理し、考察する学習活動にも役立ちます。そして、安全マークで作業の際の危機意識を高める工夫、また、ポイントでは学習に役立つ、まさにポイントが示されており、生徒の理解を深める助けとなります。

教育長からもお話がありましたが、情報に関する技術では、情報モラルに関しても丁寧に扱っ

ており、今日的な課題として生徒に課題意識を持たせるような指導につなげてほしいと感じたところから、東京書籍を候補としたいと存じます。

○三町委員

今、お二人の委員の話の話を聞きましたが、基本的には同じ視点で見ている、同じような評価ですので繰り返したくないと思います。学習していく狙いがわかりやすく、実際に子どもが活動していく上で作業を進めやすいか、それから安全面での配慮、学習全体を通すための見通し、あるいはガイダンスの書き方を見させてもらいまして、今お話のあったような視点から東京書籍と開隆堂出版、この2者ということです。

○高槻委員

私は保健や技術というのは考え方を学ぶのではなくて情報量が多い方がいいと思います。その観点からいって、東京書籍が少し大きく見やすく作ってあるので、これに絞りました。

○山田委員長職務代理者

私も一つに絞って東京書籍を推しております。皆さんがおっしゃったとおりです。例えば作業工程が左から右に一直線に配置されて、非常に確認、理解しやすい内容にされていること、それにおもしろいと思ったのは、宮大工の小川さんの紹介や、法隆寺の五重塔が戦争体験前のもので聞いて宮大工に引き込まれたきっかけ、人物の紹介、数百年後を見すえた森を育てなければという問題意識など、興味を持たせるページもありました。それも生徒に興味、関心を持たせる、工夫ではないかと思っております。

情報モラルに関しても考えていくというところで10ページ、生徒の立場になってプラス面とマイナス面についてしっかりと学べる工夫がいいと思いました。ただ、ほかの教科に比べ、東京書籍のつくりを評価すると、写真のイメージが入ってその世界に一気に引き込んでというところではこの技術分野では見られないので、そこに関しては東京書籍の良さが若干半減かと感じますが、東京書籍を薦めたいと思います。

○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、委員の皆様のご意見から、技術分野につきましては東京書籍を議案候補としたいと思います。発行者名東京書籍、図書名「新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

それでは、次に、技術・家庭の家庭分野に移ります。

家庭分野について、事務局からご説明をお願いいたします。

○高橋教育指導担当部長

それでは、技術・家庭、家庭分野の目標及び学習指導要領のポイントについてご説明をいたします。

家庭分野の目標は、衣食住などに関する実践的、体験的な学習活動を通して生活の自立に必要な基礎的、基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して課題を持って生活をよりよくしようとする能力と態度を育てるでございます。

学習指導要領のポイントとして4点。

第1に、児童の発達と生活の特徴を知り、家族の役割を理解すること。高齢者などの地域の人々とのかかわりについて触れることを必修化するなど、人とよりよくかかわる能力の育成を目指した学習活動を充実したことでございます。

第2に、食生活、健康によい食習慣について考えること。そこで地域の食文化への理解を新設してございます。

第3に、衣生活と住生活を人間を取り巻く環境として捉え、和装の基本的な着装を扱うこともできるようになってございます。

第4に、中学生の消費生活の変化を踏まえた実践的な学習活動をさらに充実することでございます。なお、実習等の結果を整理し考察する学習活動や生活における課題を解決するために、言葉や図表、概念などを用いたり説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮し、言語力の育成を図ることは技術分野と同じように求められているところでございます。

○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、家庭分野の協議に入ります。家庭分野につきましては、発行者3者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」、教育図書が「新技術・家庭 家庭分野」、開隆堂出版が「技術・家庭（家庭分野）」となっております。

それでは、私から先に意見を述べさせていただきます。

家庭分野につきましては、東京書籍の教科書が妥当であると思われました。東京書籍では生活に必要な基礎的、基本的な知識及び技術の習得のために調理の基礎技能、制作の基礎技能のページが大変充実していること、そして安全面と衛生面にも注意を払っていることが特徴であると思えます。また、調理例や作品に関する実習例、幼児との関わり、そして生活の課題と実践の進め方など、まさに家庭分野の目標に合致した教科書であると思えます。「TPOを踏まえた自分らしい着方を工夫しよう」という項目の中で和服の文化に触れ、浴衣の着方なども示されています。

また、巻末には「学習を終えて」として、学んだことを発表するさまざまな学習活動や生活に

おける課題を解決するために言葉や図表などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動を充実させる工夫もあり、この1冊で家庭科の内容はほぼ網羅されていると思います。

私としては手元に置いておきたい教科書であるとも思っております。まさに教科書の副題である自立と共生を目指している小平の中学生にとって最適な教科書なのではないかという感想を持ちました。

○関口教育長

私としては東京書籍が充実していると思ったのが200ページから211ページまでの幼児とのふれ合い体験です。これは本市の教育振興基本計画の重点プロジェクトとして取り上げていますので、中学生にとって自己肯定感や自己有用感を身につけるには非常に役立つと考えております。このことについては、開隆堂出版についても8ページを割いて触れておりますけれども、私としては東京書籍が充実していると思います。

東京書籍はA B判でゆったり感があります。開隆堂出版はどうしてもB版であるということで、文字や行間が狭く感じてしまうので、東京書籍を選びたいと思います。

○三町委員

私も結論から言いますと東京書籍です。もう意見が出ていますが、例えば、ふれ合い体験の単元配列が、東京書籍と開隆堂出版が少し違いますが、幼児のふれ合い体験の実施時期との関係を考えて、年間指導計画はもちろん学年に応じて変えますから、教科書の配列どおりじゃなくても構わないといえは構わないですが、単元の第3章に來ている東京書籍が小平市の中学校で実施している幼児とのふれ合い体験の実施時期を考えると若干プラスポイントかとは思いました。ガイダンスページ、これもいいと思いますし、もう一つ、これは決まってしまったこととの関連もあります。開隆堂出版の家庭科と技術家庭科の流れと、それから東京書籍の技術分野、家庭分野の編集の仕方を見ていると男女共修という考えで、もし東京書籍だった場合に、家庭科が東京書籍はどちらも同じような編集といえますか、全く捉え方も同じなので、ある意味で違和感をなく使えると思います。これが一つ、技術科が東京書籍になったということとの関連で、特にこの場合は一つ考慮していい内容かと思いました。

○高槻委員

家庭分野を、私は教科書を見ながら改めて家庭科は他分野と関連がある科目だと思いました。例えば食生活は動物の消化生理で理科とのつながりが生じるし、食材を買うことは、経済や家計簿のつけ方などにつながる。廃棄物の問題は環境の問題ともつながる。

東京書籍が見やすさ、大きさ、情報量の豊富さで一番いいと思いました。

○山田委員長職務代理者

特に、何も言うことがないのですが、私も東京書籍です。あえて教育図書と比べてみたところ

がありまして、例えば料理本として、料理のレシピとして見てみました。豚の生姜焼きの説明が若干違います。東京書籍は肉の調理をしようというところですが、小麦粉を使います。ところが、教育図書はページも半分でおさめようとしているので、小麦粉の入る手間を省いて端折っている感があります。この手間は、味がなじむということだと聞きました。そういった観点で見ると、丁寧に工程を載せている東京書籍のほうがレシピ本としてもずっと手に持っていくものとしてもいいと思います。私も東京書籍でいきたいと思います。

○森井委員長

それでは、皆様の意見が一致したというところで、家庭分野につきましては、議案候補として、発行者名東京書籍、図書名「新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」が妥当と存じます。いかがでしょうか。

－異議なしの声あり－

○森井委員長

では、次に、英語に移ります。

英語について、事務局からご説明をお願いいたします。

○高橋教育指導担当部長

それでは、外国語、英語の目標及び学習指導要領のポイントについてご説明をいたします。

外国語の目標は、外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養うでございます。

学習指導要領のポイントとして4点。

第1に、既習事項については、スパイラルに繰り返し指導を行い定着を図ること。

第2に、より実践的な運用能力を育成することを重視するため、聞く、話す、読む、書くを総合的に行う学習活動を充実し、活用し、発信する力を育成すること。

第3に、文法事項は言語活動と効果的に関連づけ、繰り返し指導すること。

第4に、音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度について、小学校における外国語活動を通じて育成された素地を前提としたことです。

○森井委員長

ありがとうございました。

それでは、英語の協議に入ります。

英語につきましては、発行者6者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「NEW HORIZON」、開隆堂出版が「SUNSHINE」、学校図書が「T

OTAL ENGLISH」、三省堂が「NEW CROWN」、教育出版が「ONE WORLD」、光村図書出版が「COLUMBUS 21」となっております。

それでは皆様にご意見を伺いたいと思いますが、私から申し上げてよろしいでしょうか。

私としては三省堂を候補にしたいと思いますが、6者とも小・中連携を意識して、学習指導要領の目標にあるコミュニケーション能力の基礎を養うことができるよう、4技能の活動がバランスよく扱われていると審議委員会からのご報告にもございますが、特に三省堂についてはその4技能に分けてコミュニケーション能力を高める構成であるとされています。そのような観点で教科書を見ましたが、各科は、GET→USE Read→USE Speak、USE Writeで構成されており、学習する内容を聞く、話す、書くことにより文法などを繰り返し練習できるような工夫があることから、基礎、基本の確実な習得を助ける内容であると思います。

また、各学年、年間3回設定されているProjectでは、幾つかのレッスンの中で学んだ言語材料や言語活動を生かして、繰り返し指導することで定着を図るという学習指導要領のポイントにも合致しています。

第1学年の教科書ではGet Readyで小学校の外国語活動で触れた内容を振り返り、中学校への円滑な連携が図られており、Words & Soundでは音で英語を楽しむ工夫がされていることも特徴であると思います。学年が進むに従い、読むことの分量も増えてきますが、東京都教育委員会の調査資料から、読む教材の量が6者中最も多く、内容についても第1学年では不思議の国のアリス、第2学年では狂言や戦争体験に関する読み物、そして第3学年では映画を題材としたものやプロテニスプレイヤーについてなど、生徒の興味、関心をひくだけでなく、内容についてもすばらしいものであると思えました。小平市立図書館での、小平市立中学校の教科用図書に関するアンケートにおいても、この点は評価できるとのご意見がございました。

また、文法については、文法のまとめと付録の基本文のまとめが大変充実しており、CAN-DOリストにより、生徒が自分で1年間学習した英語力を確認できることも英語を学ぶ意欲の継続につながると思います。

以上の理由から、私としては三省堂を候補として挙げたいと思います。

○関口教育長

結論からお話ししますと、私としては三省堂と東京書籍です。三省堂につきましては、先ほど委員長がおっしゃったとおりだと思いますが、教材が多岐にわたっていて、非常にキャリア教育的な視点にも配慮されている部分があると思います。

それから東京書籍については、ツールボックスが、いろんな表現が学習できるということと、各ユニットの構成が3年間統一されていてわかりやすいといった特徴がありますので、候補としては三省堂と東京書籍を挙げたいと思います。

○三町委員

英語については先ほども説明がありましたが、積極的にコミュニケーションを図ろうと

する態度や、4技能を総合的に学ばせていくというようなポイントは説明されました。そういったことも踏まえて、子どもたちは3年間見通して学習ができるように編集されている。その4技能が、一つくり返しレッスンなりアクティビティーの中で出てくるのかとそういった視点。それらのバランス。それから題材としての発展性、発展にかかわるような内容。そういう視点で見まして、私も東京書籍と三省堂を挙げました。

この中で、自分としてはランクははっきりつけています。見通した学習ということで、東京書籍の特色かもしれませんが、小学校から中学校3年生まで一貫した流れもしっかりと書かれていて、それを進めていきますから指導者はぶれないし、子どももどうやって学ぼうかというところがはっきりしているので、教師は担任や教師が変わってもその教科書の方針の流れの中で自分を生かしているのです、よさがここでは強く感じました。

それから、話すことに関しては、各レッスンごとのところに必ずDaily Sceneという、日常との場面のところを強調した形が、これも一貫してどのところも一つは必ず入ってくる。これが特徴的に東京書籍を推したいというところがございました。いずれにしても2者ですが、その中でいうならば東京書籍を推したいというところでございます。

○高槻委員

私はもう本当に旧人類なので、その時代の中学校のときに教わった教科書は文法が中心でした。今でも日常的に英語で論文を書きますが、それは中学校のときの文法をたたき込まれたことが役に立っています。文法に偏りすぎという反省から会話を重視となりましたが、今日、高橋教育指導担当部長の説明を聞くと、言語に対する興味とコミュニケーションの両方が重要だと言われている。その視点からすると、私はどの教科書も文法の説明が少なく、正確な訳は書いていないし、それから文章の構造がなぜそういう意味になるかということも書かれていません。これは中学生は困るのではないかと感じました。

その傾向は特に三省堂に強くて、東京書籍はそうでもない、文法の文章の構造がなぜそういう意味になるかという説明は時々出てきます。我々は書くほうの英語が主体なので、そっち側に偏り過ぎているかもしれませんが、会話をしているときも、これはこういう構造になっているからこういう意味になるのだという意識というのはあるはずで、文法は理屈っぽいので、子どもが英語を嫌いになるという配慮はあるかもしれませんが、そういう印象を持ちました。幾つか見比べましたが、東京書籍が一番で、三省堂が二番目だという印象です。

○山田委員長職務代理者

私もこれは6者のうちから東京書籍を推したいと思っております。

例えば、おもしろい観点でいくと、1年生では英語の歌を4曲紹介していたりして、音楽を通して英語への興味、関心の接続を果たしていると思います。また2年生の教科書で、将来の夢を英語で考えてみようという試みはとてもいいと思って、言語活動として懸命に伝えようとする、考えの行動につながる、同じく2年生の町紹介ということで、英語で自分の町について考えさせ

て、自分の町を見つめるいい機会にもなる。3年ではファンレターという設定で英語で手紙を書こうとありますが、つまり大変興味のある相手だからこそ気持ちを伝えようという生徒の心が働いて、またさらに相手を知りたいという衝動、行動から質問をたくさん英語で書けるようになるのではないかと思います。そんなような観点、持っていき方がいいと思っております。

また、3冊を通して1年から3年まで、長文は、さほどなくもの足りない生徒さんもなくもないかもしれませんが、全体的には生徒たちの教科書、維持し得る構成になっているのではないかと思いますし、とにかくこのユニット1からユニット4まで、一貫して流れが非常にスムーズです。このキャラクターがまたよくて、生き生きと躍動感あふれるアニメキャラクターなのですが、非常にこの状況がわかりやすいと思います。特に26ページは、このやりとりはおもしろいです。アメリカ出身ですか。そうです。ニューヨークですか。いや、ボストンよ。じゃあ、レッドソックスファンですか。そう。このやりとりが簡単な文ですけれども、この絵が非常に躍動感があって、これも引き込まれる。この教科書に引き込まれる一因だと思っております。ということで東京書籍を推したいと思っております。

○森井委員長

ありがとうございます。皆さんからお伺いましたね。

それでは、皆様のご意見から、英語の議案候補として、発行者名東京書籍、図書名「NEW HORIZON」、発行者名三省堂、図書名「NEW CROWN」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

—異議なしの声あり—

○森井委員長

では、そのようにいたします。

以上で、本日の協議を終了いたします。次回8月20日において、本日の協議結果に基づきまして、種目ごとに候補を1者に絞り、それらを議案の原案といたしたいと存じます。

終わりに、次回の教育委員会定例会ですが、平成27年8月20日木曜日、午後2時から市役所6階大会議室で開催いたします。

なお、参集時刻は午後1時30分といたします。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。これをもちまして、教育委員会8月臨時会を閉会いたします。

午後5時59分 閉会